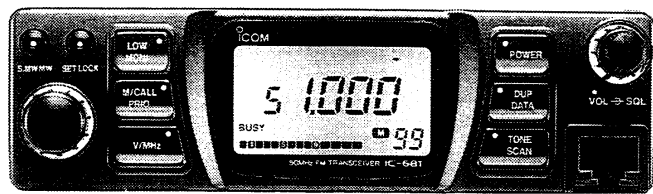


ICOM

取扱説明書

50MHz FM TRANSCEIVER **IC-681**



この無線機を使用するには、郵政省のアマチュア無線局の免許が必要です。また、アマチュア無線以外の通信には使用できません。

Icom Inc.

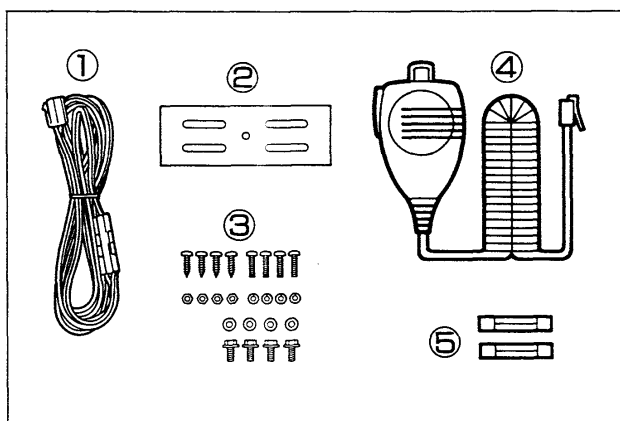
はじめに

このたびは、IC-681をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本機は、車載用として設計された、50MHz帯のFMトランシーバーです。

ご使用の際は、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分に発揮していただくと共に、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

付属品



①DC電源コード(OPC-343)	1
②車載ブラケット	1
③車載ブラケット用ビス一式	1
④マイクロホン(HM-78)	1
⑤予備ヒューズ(5A)	2

- 取扱説明書
- 愛用者カード
- 保証書

目次

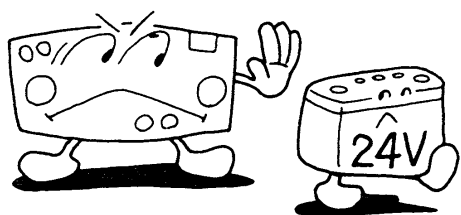
1. ご使用になるまえに	1
■ご注意について	1
2. 各部の名称と機能	3
2-1 前面パネル	3
2-2 ディスプレイ	5
2-3 後面パネル	6
2-4 マイクロホン(HM-78)	6
3. 設置のしかた	7
3-1 車に取り付けるときは	7
3-2 取り付けかた	7
3-3 電源の接続	8
3-4 アンテナについて	9
1. 固定運用時のアンテナについて	9
2. 同軸ケーブルについて	10

4. 基本操作のしかた	11
4-1 電源の“ON/OFF”, 音量, スケルチの調整	11
4-2 操作モードの切り換えかた	12
4-3 周波数の設定のしかた	13
4-4 チューニングステップを変えたいときは	14
4-5 受信のしかた	15
4-6 送信のしかた	16
5. SETモード	18
5-1 イニシャルセットモード	18
5-2 SETモード(通常)	21
6. メモリーの使いかた	27
6-1 メモリーについて	27
6-2 メモリーの使用範囲について	27
6-3 M-CHの呼び出しかた	28
6-4 M-CHへの書き込みかた	29
6-5 メモリーの内容をVFOで使うには	30
6-6 スキップチャンネルの指定のしかた	31
6-7 コールチャンネルの使いかた	32
6-8 LOG(ログ)メモリー機能について	33
7. スキャンのしかた	35
7-1 スキャンについて	35
7-2 スキャン操作をする前に	35
7-3 プログラムスキャンのしかた	36
7-4 メモリー(スキップ)スキャンのしかた	39
7-5 プライオリティスキャンのしかた	40
8. その他の機能と使いかた	43
8-1 デュプレックス運用のしかた	43
8-2 データ通信の運用	45
8-3 オートパワーオフ機能について	47
8-4 ユーザーファンクション機能について	48
8-5 周波数ロック機能について	49
8-6 ビープ(操作音)について	49
8-7 30秒タイマー機能について	49
9. UT-85(オプション)の使いかた	50
9-1 UT-85の取り付けかた	50
9-2 トーンスケルチ/ポケットビープの使いかた	51
9-3 トーンスキャンについて	52
10. 保守について	53
10-1 リセットについて	53
10-2 ヒューズの交換	55
10-3 故障のときは	55
11. トラブルシューティング	56
12. 免許の申請について	58
■IC-681 送信機系統図	59
13. 定格	60
■IC-681 オプション	60

ご使用になるまえに

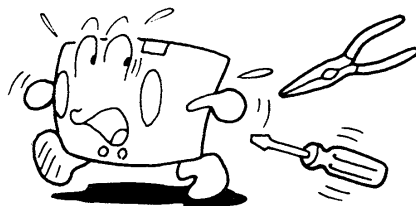
■ご注意について

本機はDC13.8V仕様です。



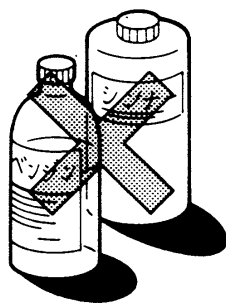
24V系バッテリーの車、およびAC100Vには直接接続しないでください。

内部のコアやトリマーをさわらないでください。



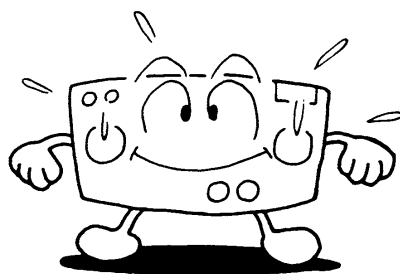
完全調整していますので、本書で指定のないところをさわると故障の原因になります。

シンナーやベンジンは絶対に使わないでください。



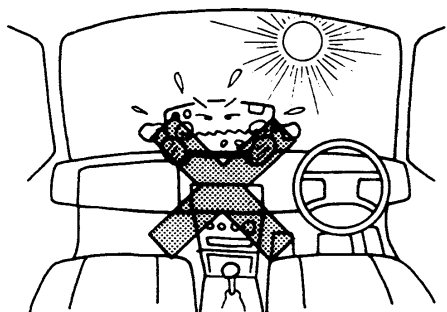
通常は乾いた布で、汚れのひどいときは水で薄めた中性洗剤をひたして拭いてください。

長時間送信すると熱くなりますが、異常ではありません。



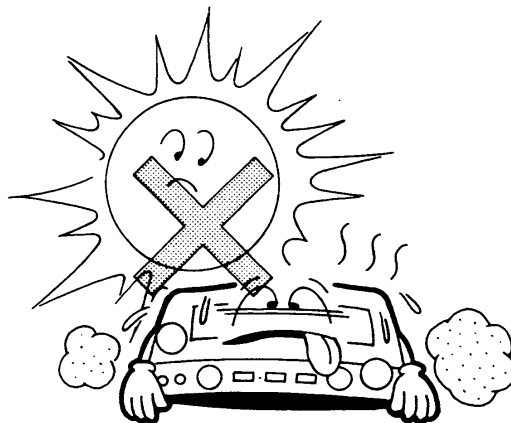
できるだけ風通しのよい、放熱の妨げにならない場所を選び、特に子供や周囲の人が放熱部を触れないようご注意ください。

直射日光のあたるところに長時間放置しないでください。



炎天下では車内の温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えます。また、真冬は車内の温度を上げてからご使用ください。

高温、多湿やホコリの多いところでの使用はさけてください。



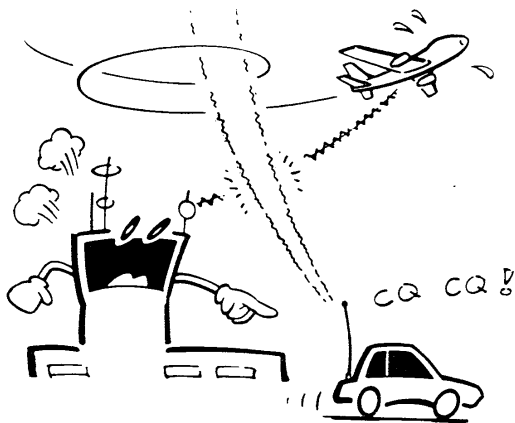
電波を発射する前に

ハムバンドの近くには、多くの業務用無線局の周波数があり、運用されています。

これらの無線局の至近距離で電波を発射すると、アマチュア局が電波法令を満足していても、不測の電波障害が発生することもありますので、十分ご注意ください。

特に次の場所での運用は原則として行わず、必要な場合は管理者の承認を得てください。

民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、業務用無線局および中継局周辺など。

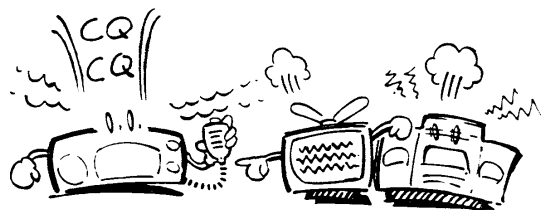


電波障害について

運用中電波障害が発生したときは、ただちに運用を中止して、自局の電波が原因であるのか、また、障害を受けている機器側にあるのかを、よく確かめたうえで適切な対策を講じてください。

JARL（日本アマチュア無線連盟）では、アマチュア局の申し出により、その対策と障害防止の相談を受けておりますので、JARLの監査指導員またはJARL事務局に申し出られるとよい結果が得られると思います。

また、JARLではアマチュア局の電波障害対策の手引きとして「TVI・ステレオI対策ノート」を有料配布していますので、JARL事務局へお問い合わせください。

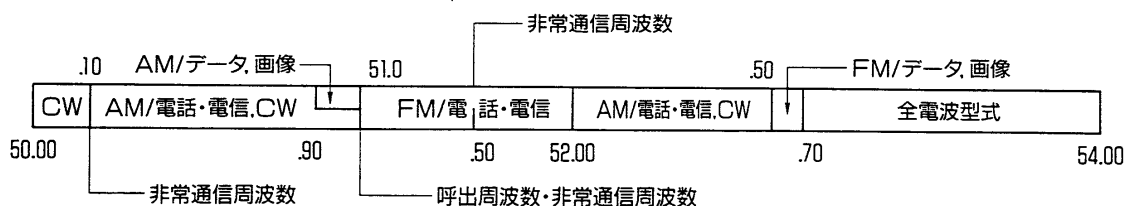


アマチュアバンド使用区分

●使用区分にそって運用してください。

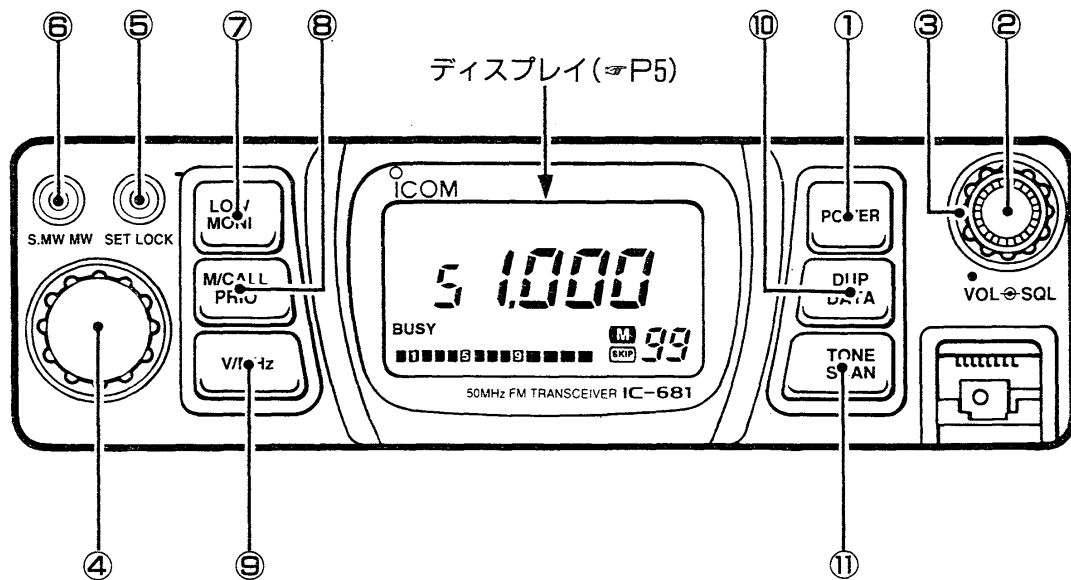
50MHz帯


周波数：MHz


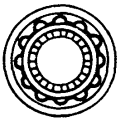
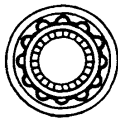


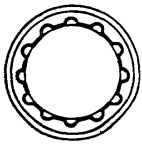





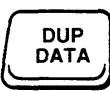

- 注1) 50.01MHzの周波数は、JARLのアマチュア局(JA2IGY)のCWによる標識信号の送信を行う場合に限る。
- 2) 50.00MHzから50.10MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのF1電波によるデータ伝送にも使用することができる。
- 3) 51.00MHzから51.05MHzまでの周波数は、外国のアマチュア局とのAM/電話・電信及びCWによる通信を行うことができる。

2-1 前面パネル



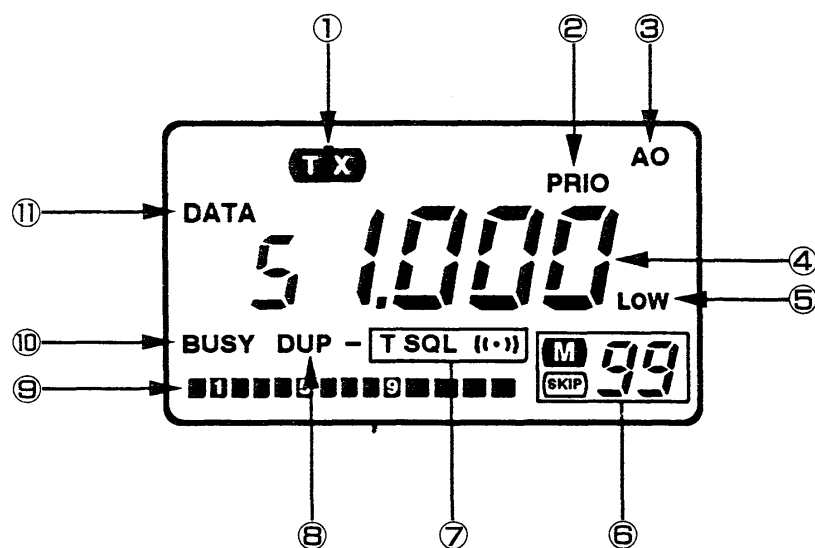
(注)青色で表示している機能は、スイッチを1秒以上押すことにより、動作します。
 下表の  (アミカケ部)がその機能です。

No.	スイッチの名称		おもなはたらき
①		POWER (電源)スイッチ	本機の電源スイッチです。(P11) 一回押すごとに、電源がON/OFFします。
②		VOL(音量) ツマミ(内側)	音量を調整するツマミです。(P11) 聞きやすいところにセットしてください。
③		SQL(スケルチ) ツマミ(外側)	受信していないときの、雑音をなくすスケルチ調整ツマミです。(P11) 通常は雑音の消える位置にセットしておきます。 このツマミは、強力な受信信号を減衰させるアッテネーターとしても動作します。(P11) ツマミを12時半の位置から、右に回すことで減衰動作が始まり、右に回しきると約10dB減衰されます。

No.	スイッチの名称	おもなはたらき
④	 ダイヤルツマミ	運用周波数の設定(☞P13)、メモリーチャンネルの呼び出し(☞P28)などを行うツマミです。 ※イニシャルセットモード(☞P18)/SETモード(☞P21)時は、運用条件を切り換えます。 ※スキャン中は、スキャンの方向を切り換えます。(☞P35)
⑤	 SET LOCK SET(セット)スイッチ	運用条件を設定するためのSETモードにするスイッチです。(☞P21)
	LOCK(ロック)スイッチ	ダイヤルツマミや各スイッチ機能を無効にして、周波数をロック(固定)するスイッチです。(☞P49)
⑥	 S.MW MW S.MW(セレクトメモリー)スイッチ	メモリー書き込み操作時、書き込みするメモリーチャンネルを選択するためのスイッチです。(☞P29)
	MW(メモリーライト)スイッチ	表示周波数をメモリーチャンネルへの書き込み(☞P29)や、メモリーチャンネルの内容をVFOモードに転送するとき使用するスイッチです。(☞P30)
⑦	 LOW MONI LOW(ローパワー)スイッチ	送信出力の“HIGH/LOW-1/LOW-2”を切り換えるスイッチです。(☞P17)
	MONI(モニター)スイッチ	強制的にスケルチを開き、受信モニターを行うスイッチです。(☞P15)
⑧	 M/CALL PRIO M/CALL(メモリー/コール)スイッチ	メモリーモード(☞P12)またはコールチャンネルモード(☞P12)にするスイッチです。
	PRIO(プライオリティ)スイッチ	プライオリティスキャンのスタート/ストップを行うスイッチです。(☞P40)
⑨	 V/MHz V/MHzスイッチ	運用周波数を設定するためのVFOモードにするスイッチです。(☞P12) VFOモード状態のときに押すと、1MHzステップで周波数を可変することができます。(☞P13)
⑩	 DUP DATA DUP(デュプレックス)スイッチ	デュプレックス運用モードにするスイッチです。(☞P43)
	DATA(データ)スイッチ	パケット通信のモードにするスイッチです。(☞P45) ※通信速度、9600bps
⑪	 TONE SCAN TONE(トーン)スイッチ	トーンスケルチやポケットビーブ機能の運用モードにするスイッチです。(☞P51) ※UT-85装着時
	SCAN(スキャン)スイッチ	各種スキャンのスタート/ストップを行うスイッチです。(☞P38)

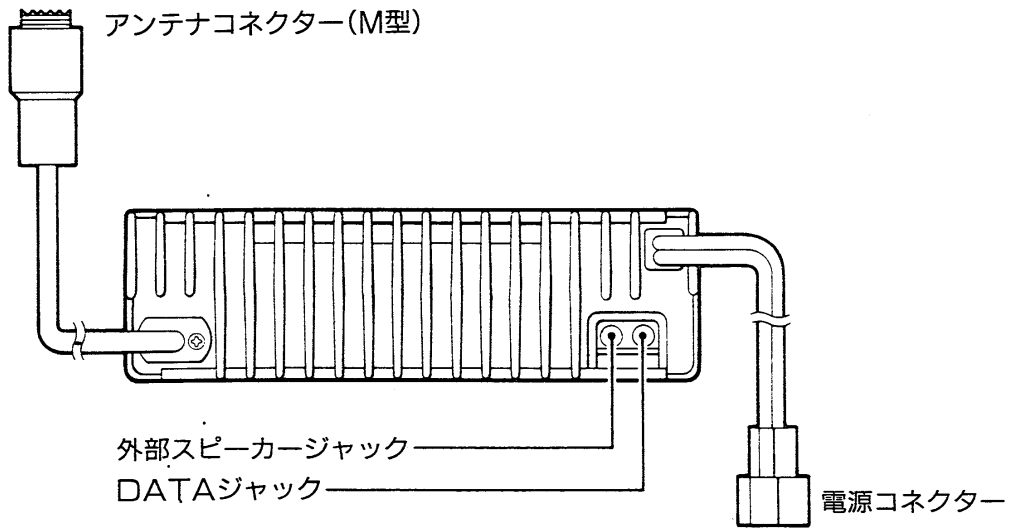
2 各部の名称と機能

2-2 ディスプレイ

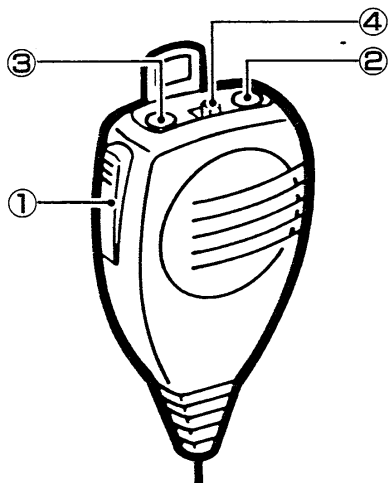


No.	表 示	表 示 の 内 容
①	T X	送信中を表示します。
②	P R I O	プライオリティスキャンが動作中であることを表示します。
③	A O	オートパワーオフ機能が動作中であることを表示します。
④	5 1000	通常は、運用周波数を表示します。 その他、各種のセット内容を表示します。
⑤	LOW	送信パワーがLOWパワーになっていることを表示します。
⑥	M SKIP 99	メモリーモードの表示およびメモリーチャンネル番号を表示します。 またコールチャンネルの表示も行います。 (SKIP)表示は、メモリースキャンに不要なメモリーチャンネルであることを表示します。
⑦	T S Q L ((·))	トーンスケルチおよびポケットビープ機能の運用モードになっていることを表示します。
⑧	D U P -	デュプレックスモードであることを表示します。
⑨	■■■■■■■	受信時は、受信信号の強さを表すSメーターとして動作し、送信時は、送信出力を示すインジケータとして動作します。
⑩	B U S Y	信号を受信しているとき、またはスケルチが開いているときに点灯します。
⑪	D A T A	パケット通信などができる、データ通信モードを表示します。

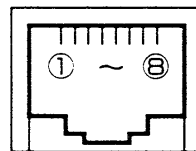
2-3 後面パネル



2-4 マイクロホン(HM-78)



■マイクコネクターの接続(正面から見た図)



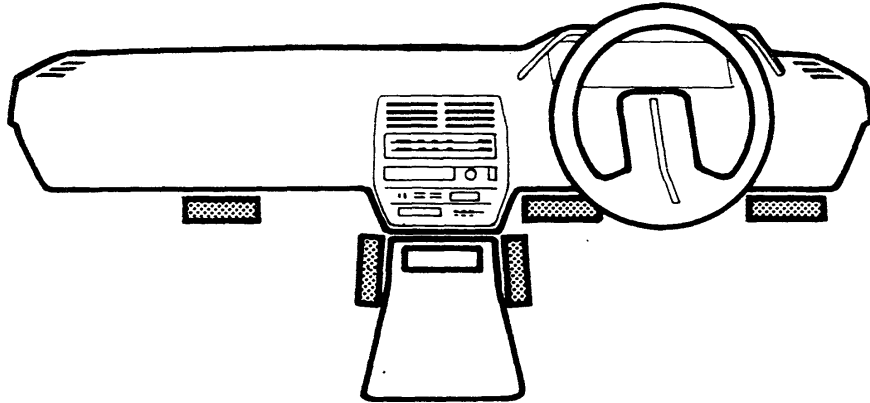
- | | |
|----------|--------------|
| ① +8V | +8V(10mAの出力) |
| ② MIC UD | アップ/ダウン |
| ③ AF OUT | AFの検波出力 |
| ④ PTT | |
| ⑤ GND | マイクのアース |
| ⑥ MIC | マイク入力 |
| ⑦ GND | PTTのアース |
| ⑧ NC | 未使用 |

No.	表示	表示の内容
①	PTT(プッシュ・トゥ・トーク)スイッチ	送信と受信を切り換えます。 スイッチを押しながらマイクに向かって話しかけてください。 スイッチを離すと受信に戻ります。
② ③	UP(アップ) DN(ダウン) スイッチ	<ul style="list-style-type: none"> ●VFOモード時は、周波数のアップ/ダウンができます。 ●メモリーモード時は、メモリーチャンネルのアップ/ダウンができます。 ●0.5秒以上押すと、スキャン動作になります。 前面パネルのスイッチ機能を、UP/DNスイッチで操作できるようになるユーザーファンクションにもなります。(P48)
④	LOCK(ロック)スイッチ	UP/DNスイッチの有効/無効を切り換えるスイッチです。 ON側に切り換えると、UP/DNスイッチの動作を無効にします。

3-1 車に取り付けるときは

車に取り付けるときは、下図のような位置をおすすめします。
安全運転に支障のない場所を選んでください。

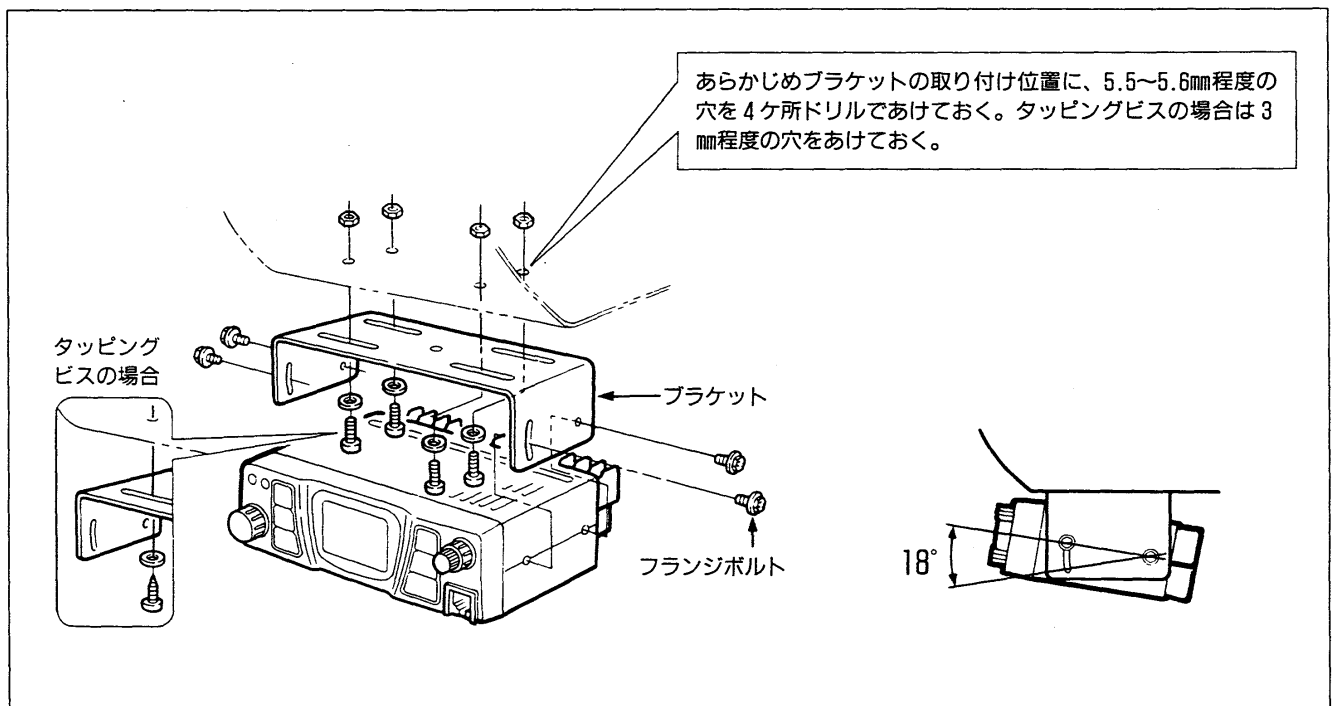
●車内での取り付け例



◎直射日光のあたる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所への設置は、極力さけてください。
特に夏期の日中、ドアを締め切った状態で長時間放置しますと、室内温度が極端に上昇し、本機に悪影響を与えることがありますので、ご注意ください。

3-2 取り付けかた

付属の車載ブラケットを利用し、ブラケットがしっかり固定される場所に取り付けます。



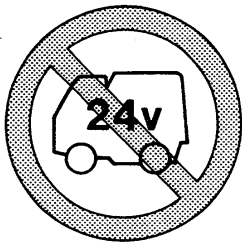
3-3 電源の接続

電源は車のバッテリー(12V系)に、直接付属のDC電源コードで接続してください。

(注) DC電源コードとバッテリー間の接続は、本機を接続する前に行ってください。

- ①かための針金をエンジンルームから、グローメットを貫通させて車内に引き込みます。
- ②針金にDC電源コードをからませ、針金の先端をペンチなどで曲げ、テープを巻いて、エンジンルームへ引き出します。
- ③DC電源コードは、赤色が⊕プラス側、黒色が⊖マイナス側になっていますので、間違えないようにバッテリーの端子に接続します。

●本機とバッテリーの接続

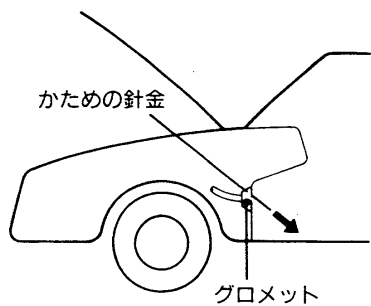


24V系のバッテリーの車は、そのままでは接続できません。DC-DCコンバーター(24Vを13.8Vに変換する)が必要です。お買い上げの販売店にご相談ください。

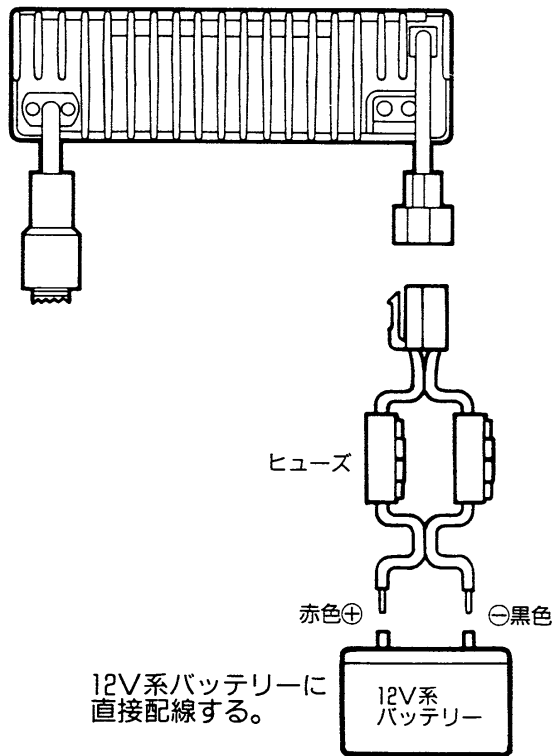


シガレットライターから電源をとると、接触不良を起こしたり、誤動作の恐れがありますので、さけてください。

●車内からエンジンルームへの配線



●本機とバッテリーの接続



12V系バッテリーに直接配線する。

※固定局用としてご利用の場合は、DC13.8V、5A以上の安定化電源が必要です。

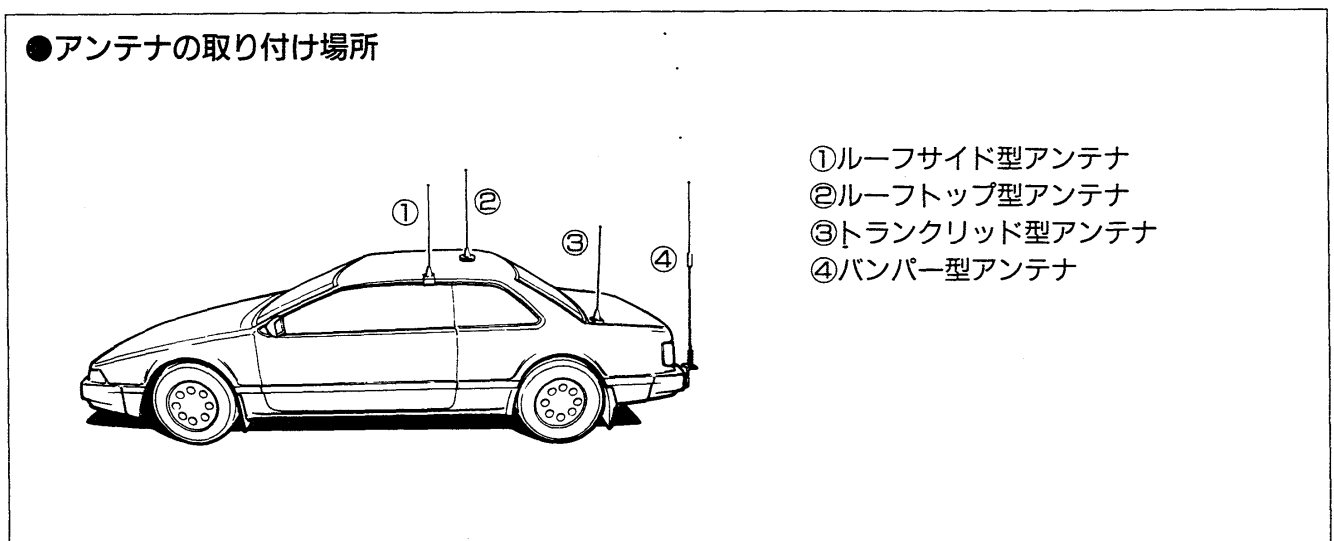
3 設置のしかた

3-4 アンテナについて

トランシーバーの性能は、使用するアンテナの良否によって大きく左右されます。

目的に合ったアンテナを、正しい状態で使用することがアンテナの効率をあげることになります

- ①アンテナは後面パネルのANTコネクタに接続してください。
- ②市販の車載アンテナは、同軸ケーブルが付属されていますが、できるだけ短くなるように配線してください。
- ③同軸ケーブルの引き込み部から、雨水が入らないようにご注意ください。



1. 固定運用時のアンテナについて

市販されているアンテナには、無指向性のアンテナと指向性のアンテナがありますので、用途や設置スペースに合わせてご使用ください。

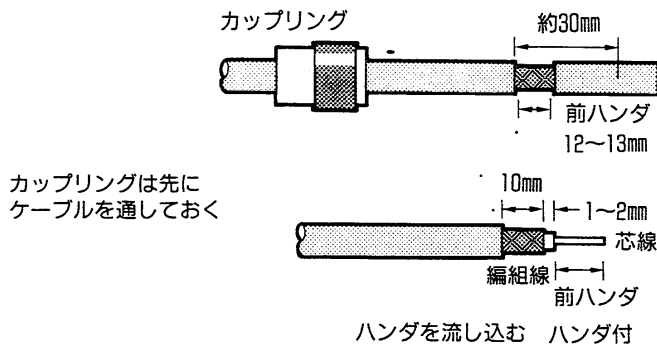
- ①無指向性アンテナ(グランドプレーンなど)：ローカル局やモバイル局との交信に適しています。
- ②指向性アンテナ(八木アンテナなど)：遠距離局や特定局との交信に適しています。

2. 同軸ケーブルについて

アンテナの給電点インピーダンスと同軸ケーブルの特性インピーダンスは、50Ωのものをご使用ください。

同軸ケーブルには各種のものがありますが、できるだけ損失の少ないケーブルを、できるだけ短くしてご使用ください。

●M型コネクタの取り付けかた



ナイフ・カッター等で外被を切り前ハンダがしやすいように外被を抜き取ってしまわずに、12~13mmの間をあけておく。

外被を抜きとり、前ハンダした編組線を10mm程残して切りとる。芯線にも前ハンダしておく。

- 前ハンダ
コネクタ部でハンダ付けがしやすくなるようにうすくハンダしておくことです。
- ナイフ・カッター等を使用するときは、編組線、内部絶縁物等にキズをつけないように注意してください。

芯線をコネクタに通し図のようにハンダ付けを行う。

カップリングを図のようにコネクタのネジを越えるまではめ込んでおく。

4

基本操作のしかた

4-1 電源の“ON/OFF”、音量、スケルチの調整

1. 電源の“ON/OFF”

POWERスイッチを押して、電源を“ON”にします。
再度押すと“OFF”になります。

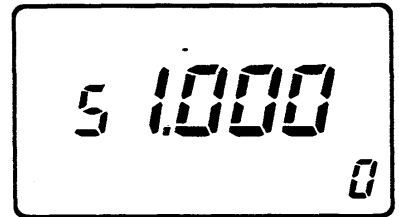
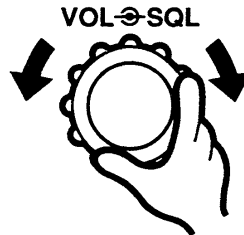


電源“ON”時は、電源を切る前の状態が表示される

2. 音量の調整

VOL(音量)ツマミを回して、音量を調整します。
右に回すと、大きくなり、左に回すと小さくなります。

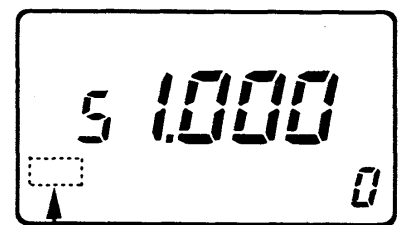
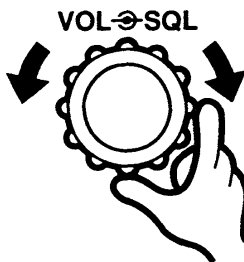
※VOLは内側のツマミです。



3. スケルチの調整

SQL(スケルチ)ツマミを回して、スケルチレベルを調整します。
信号を受信していない状態で、ザーという雑音が消える位置にセットします。

※SQLは外側のツマミです。



“BUSY”表示が消灯する位置にセットする

◎SQLツマミのアッテネーター機能について

SQLツマミは、臨界点より右に回しますと、アッテネーター(減衰器)として動作します。
(→P3)

強力な信号を受信したときに効果があります。
なお、右に回し切った位置で約10dB減衰させます。

4-2 操作モードの切り換えかた

1. VFOモードにするには

ダイヤルつまみで運用周波数を設定するモードです。

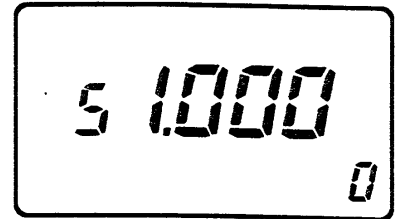
V/MHzスイッチを押します。

※VFOモードのときに操作すると、1MHzステップの可変操作になります。(☞P13)

周波数の設定のしかた(☞P13)へ



●VFOモード表示



2. メモリーモードにするには

あらかじめ記憶させたメモリーチャンネルを呼び出して、運用するモードです。

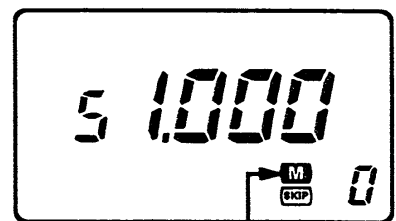
M/CALLスイッチを押します。

※以後、M/CALLスイッチを押すごとにメモリーチャンネルとコールチャンネルを切り換えます。

メモリーの使いかた(☞P27)へ



●メモリーモード表示



点灯する

3. コールチャンネルにするには

バンドの呼び出し周波数(メインチャンネル)を使用して運用するモードです。

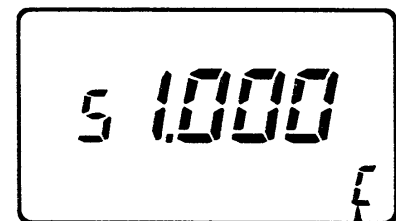
M/CALLスイッチを押します。

※VFOモードからコールチャンネルモードにするときは、2回押します。

コールチャンネルの使いかた(☞P32)へ



●コールチャンネル表示



点灯する

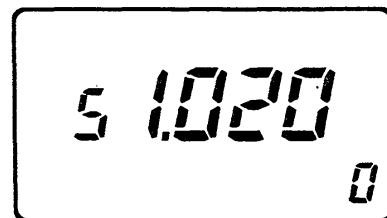
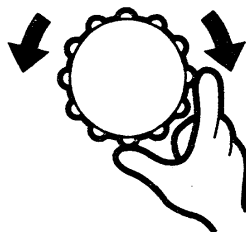
4 基本操作のしかた

4-3 周波数の設定のしかた

1. ダイヤルツマミで設定する

ダイヤルツマミを回すと、20kHzステップで周波数が変化します。
(初期設定のチューニングステップ)

※20kHzステップ以外のチューニングステップを設定する場合は、SETモード(☞P24)をご覧ください。



20kHzステップで周波数が変化する

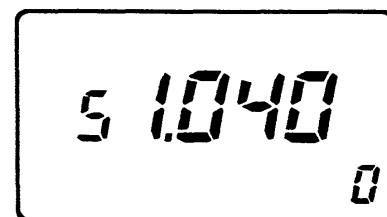
2. マイクの“UP/DN”スイッチで設定する

マイクのUPまたはDNスイッチを押すごとに、20kHzステップで周波数が変化します。

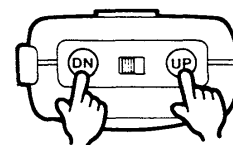
チューニングステップは、ダイヤルツマミと共通です。

- UPスイッチ：周波数がアップする
- DNスイッチ：周波数がダウンする

※UP/DNスイッチを0.5秒以上押すと、スキャン動作になります。
スキャン動作になったときは、再度UP/DNスイッチを押してください。



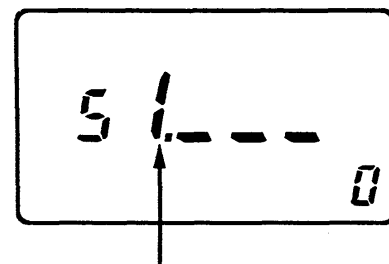
20kHzステップで周波数が変化する



3. 1MHzステップの可変操作について

設定周波数を大きく変えるときに使用します。

- (1)V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。
- (2)再度、V/MHzスイッチを押すと、1MHzステップの可変操作になります。
- (3)ダイヤルツマミを回して、1MHz桁の数値を選びます。
- (4)V/MHzスイッチを押すと、VFOモードに戻ります。



ダイヤルツマミを回すと、1MHz桁が変化する

4-4 チューニングステップを変えたいときは

1. VFOモードにする

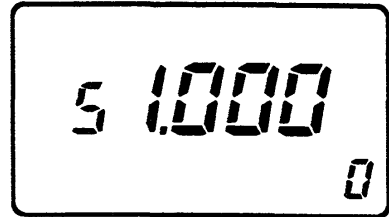
V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。

※他のモードになっているときに、操作してください。

※VFOモードのときに操作すると、1MHzステップの可変操作になります。



●VFOモード表示



2. SETモードでチューニングステップを設定する

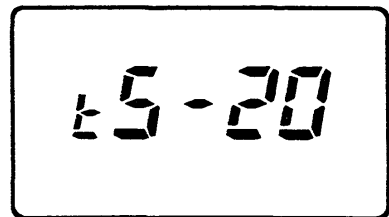
1 SETスイッチを数回押して、「チューニングステップの設定」の項目を選びます。

※メモリーモードからSETモードにすると、この項目は表示されません。

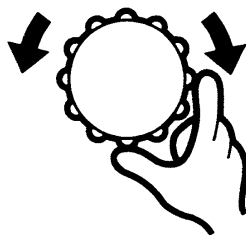
SET LOCK



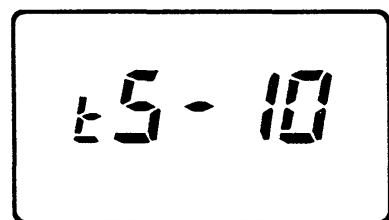
●チューニングステップ表示



2 ダイヤルつまみを回して、希望するチューニングステップを表示します。



●10KHzのステップ表示

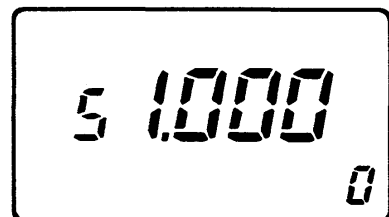


3 SETまたはS.MW以外のスイッチを押すと、SETモードは解除され、元の周波数表示に戻ります。

LOW MONI



●周波数表示に戻る

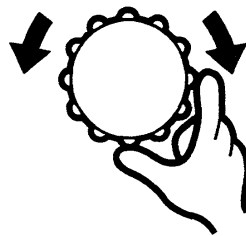


例.LOWスイッチを押す

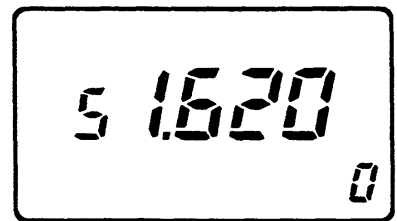
4 基本操作のしかた

4-5 受信のしかた

- 1 POWERスイッチを押して、電源を“ON”にします。
- 2 VOL(音量)ツマミを回して、音量を調整します。
- 3 SQL(スケルチ)ツマミを回して、スケルチを調整します。
- 4 V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。
(他のモードになっているときのみ)
- 5 ダイヤルツマミまたはマイクのUP/DNスイッチで受信周波数を設定します。

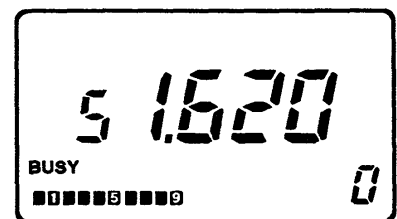


●受信周波数表示



- 6 信号を受信すると、“BUSY”表示が点灯し、音声が聞こえてきます。

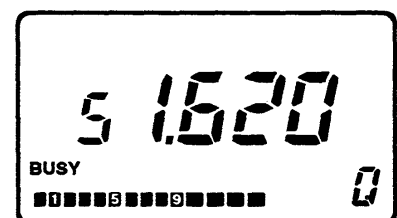
●受信表示



受信した信号の強さに応じてSメーターが振れる

■受信モニター機能

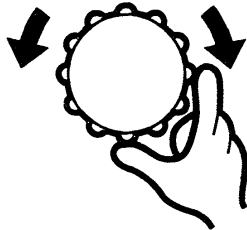
受信信号が弱くて、とぎれとぎれに聞こえるときは、LOW[MONI]スイッチを押しながら受信すると、運用時の条件により効果があります。



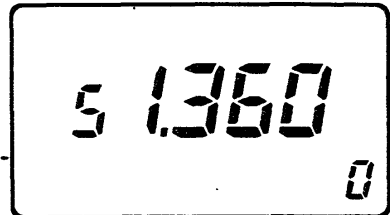
4-6 送信のしかた

送信する前は、運用する周波数を他局が使用していないか確認し、妨害・混信を与えないようご注意ください。

- 1** 交信する周波数を設定します。
ダイヤルつまみまたはマイクのUP/DNスイッチで交信周波数を設定します。



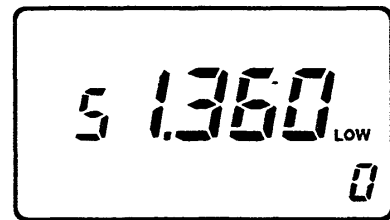
●周波数表示



- 2** 送信出力をセットします。
LOWスイッチを押して、送信時のHIGH/LOWパワーを設定します。



●LOWパワー表示



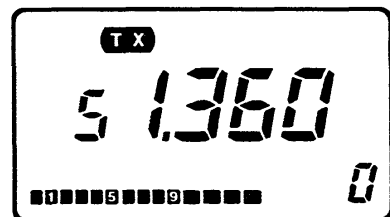
送信出力の設定のしかた
(☞P17)へ

- 3** マイクのPTTスイッチを押しながら、マイク部に向かって話します。

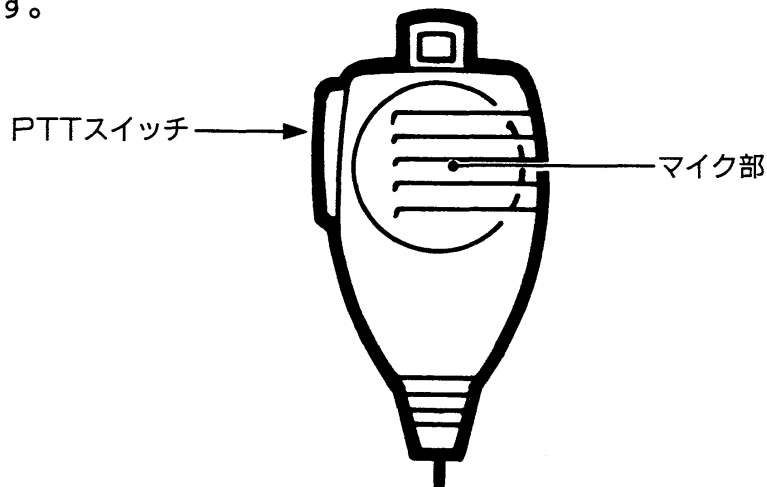
※マイクと口元は5cm程離し、普通の大きさの声で話してください。

PTTスイッチを離すと、受信状態に戻ります。

●送信表示



送信中は(TX)表示が点灯し、送信出力に合わせてインジケーターが振れる



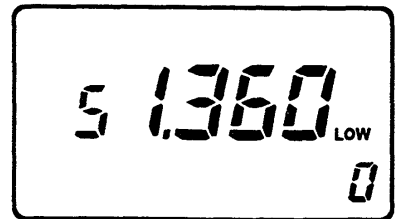
4 基本操作のしかた

■送信出力の設定のしかた

1 LOWスイッチを押すことにより、LOW-1→LOW-2→HIGHの3段階で、パワーが切り換わります。



●LOWパワーの表示

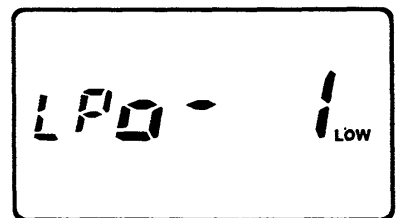


※HIGHパワー時は、“LOW”表示が消灯します。

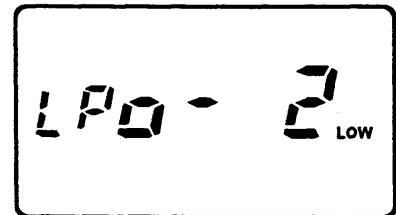
2 LOW-1/LOW-2の表示は、LOWスイッチが押されたとき、右のように、約0.5秒表示します。



●LOW-1の表示



●LOW-2の表示



●送信時の表示

出力	インジケータ表示
LOW-1 約0.5W	■0■
LOW-2 約3W	■0■0■0■
HIGH 10W	■0■0■0■5■0■0■9■0■0■

■送信時のタイムアウトタイマー機能について

タイムアウトタイマー機能とは、マイクのPTTスイッチで連続送信中に、設定時間になると強制的に送信動作を停止する機能です。

タイムアウトタイマーの設定時間は、3分/5分/15分/30分/タイマー無し(初期設定)を、イニシャルセットモード(☞P20)で設定することができます。

タイムアウトタイマーの終了時間前になると、ピープ音を鳴らして知らせます。

本機のSETモードは2種類あり、電源投入時の特殊操作で行うイニシャルセットモードと、運用条件を変更するための、通常のSETモードとがあります。

5-1 イニシャルセットモード

1. イニシャルセットモードで設定できる項目

設定項目名	項目の表示(初期設定値)	設定内容	参照
ビープ音の設定	<i>bEP-on</i>	ビープ音の“ON/OFF”を選択する	P19
タイムアウトタイマー機能の設定	<i>tot-of</i>	タイムアウトタイマーの設定時間を選択する	P20
オートパワーオフ機能の設定	<i>POF-of</i>	オートパワーオフ機能の“ON/OFF”を選択する	P20

2. イニシャルセットモードの操作のしかた

- 1 POWERスイッチを押して、電源を切ってください。

- 2 SETスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。
イニシャルセットモードの表示になります。

SET LOCK



+



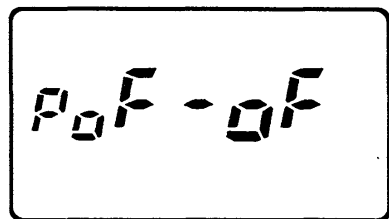
- 3 SETスイッチを押します。
SETスイッチを押すごとに、設定項目が切り換わります。

※S.MWスイッチで設定項目が逆に進みます。

SET LOCK

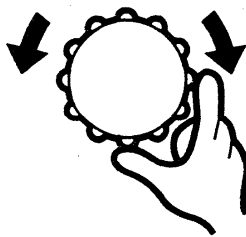


●オートパワーオフ機能の設定表示

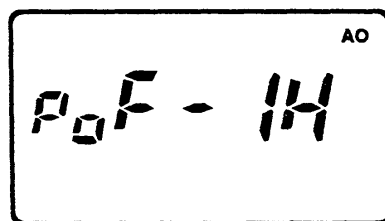


5 SETモード

- 4 ダイヤルつまみを回します。
ダイヤルつまみを回すと、設定内容が切り換わります。



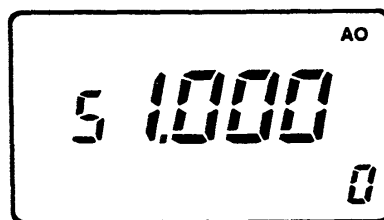
●設定内容の表示



- 5 POWERスイッチで電源を切り、再度電源を入れます。
イニシャルセットモードを解除し、運用モードに戻ります。



●周波数表示



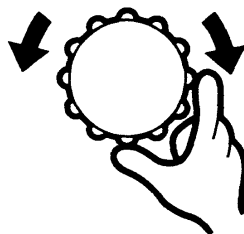
3. イニシャルセットモードの項目別詳細

1 ビープ音の設定

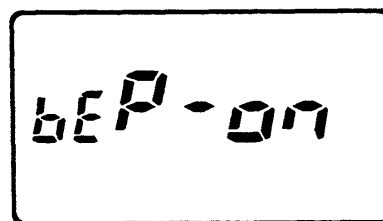
スイッチを操作したときに鳴るビープ音を“ON/OFF”できます。

ダイヤルつまみを回して、“ON”または“OFF”を選択します。“OFF”を選択すると、ビープ音は鳴りません。

※この設定に、ポケットビープの呼び出し音および電源“ON”時のビープ音は含まれません。

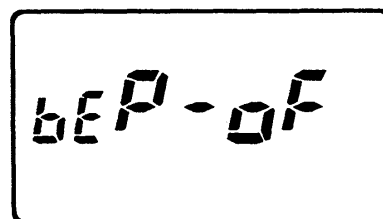


●“ON” 設定表示



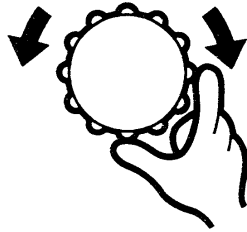
(初期設定値)

●“OFF” 設定表示

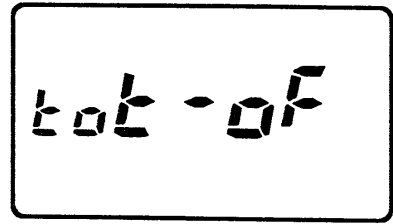


2 タイムアウトタイマーの設定

連続送信中に設定時間がきたら、強制的に送信操作を停止する時間を選択することができます。ダイヤルツマミを回すと、下表のように、タイムアウトタイマーの設定時間を切り換えることができます。設定時間になると、ピープ音が10回鳴り、送信状態を解除します。



●タイムアウトタイマー表示

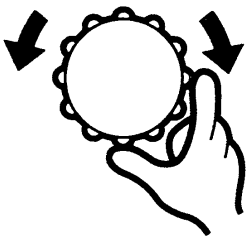


(初期設定値)

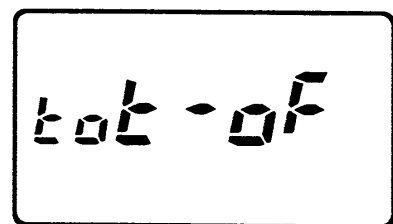
tot - of	タイムアウトタイマー機能を“OFF”にします。
tot - 3	3分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot - 5	5分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot - 15	15分間のタイムアウトタイマーが設定されます。
tot - 30	30分間のタイムアウトタイマーが設定されます。

3 オートパワーオフ機能の設定

電源の切り忘れを防止する機能です。運用が完了し、何も操作しない状態が設定時間になると、ピープ音が5回鳴り、本機の電源を“OFF”にする機能です。ダイヤルツマミを回すと、下表のように、設定時間を切り換えることができます。



●オートパワーオフ機能表示



(初期設定値)

pow - of	オートパワーオフ機能を“OFF”にします。
pow - 30	30分後にオートパワーオフ機能が動作します。
pow - 1H	1時間後にオートパワーオフ機能が動作します。
pow - 2H	2時間後にオートパワーオフ機能が動作します。

5 SETモード

5-2 SETモード(通常)

1. SETモードで設定できる項目

設定項目名	項目の表示(初期設定値)	設定内容	参照
ディマーの設定	d-4	ディスプレイの明るさを選択する	P23
トーン周波数の設定(注)	88.5 T	トーン周波数を設定する エンコーダーは内蔵 デコーダーはオプションが必要	P23
オフセット周波数の設定	0.000 DUP	オフセット周波数を選択する	P24
チューニングステップの設定 (VFOモードのみ) ※	5-20	周波数を設定するとき、またはスキャン時のステップ幅を選択する	P24
スキャンストップタイムの設定	scst-15	スキャン一時停止後の再スタートの時間を選択する	P25
プログラムスキャン範囲の設定	pscl-AL	プログラムスキャン用メモリーチャンネルに書き込まれたスキャン範囲を選択する	P25
メモリーの使用範囲の設定	ch-99 M 0	使用するメモリーチャンネルの範囲(0~99)を任意に設定する	P26
スキップチャンネルの設定 (メモリーモードのみ) ※	ch5-on M 0	メモリースキャン時にスキップするメモリーチャンネルを指定する	P26

※SETモードに入るとき、VFOモードまたはメモリーモードを設定しておかなければ、その項目は表示されません。

※印以外の項目は、VFOまたはメモリーモードに関係なく設定ができます。

(注)トーン周波数について

トーンエンコーダーは、内部のCPUにより50波運用することができます。

エンコーダー/デコーダー(トーンスケルチ)を運用する場合は、オプションのトーンスケルチユニットUT-85が必要です。

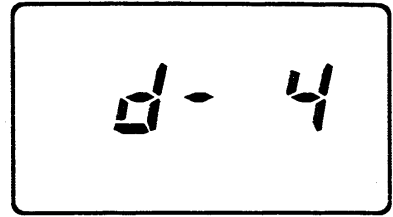
2. SETモードの操作のしかた

- 1 SETスイッチを押します。
SETモードの表示になります。

SET LOCK



●SETモード表示



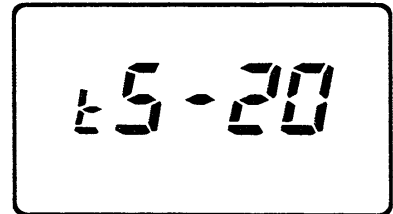
- 2 SETスイッチを押すごとに、設定項目(☞P21)が切り換わります。

※S.MWスイッチで設定項目が逆に進みます。

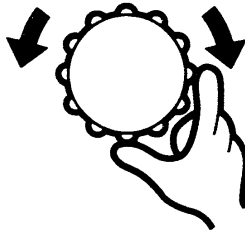
SET LOCK



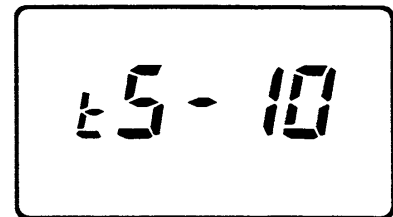
●設定項目表示



- 3 ダイヤルツマミを回します。
ダイヤルツマミを回すと、設定内容が切り換わります。



●設定内容表示

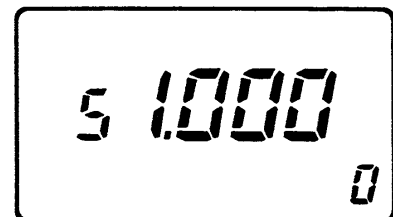


- 4 SETまたはS.MW以外のスイッチを押すと、SETモードは解除され、周波数表示に戻ります。



例.LOWスイッチを押す

●周波数表示に戻る

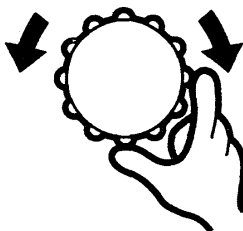


5 SETモード

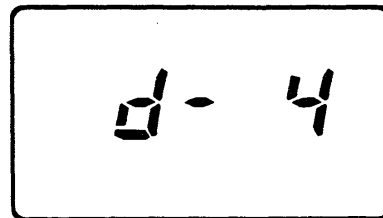
3. SETモードの項目別詳細

1 デイマーの設定

ディスプレイの明るさを4段階で
選択することができます。
ダイヤルツマミを時計方向に回
すと、“d-1”から“d-4”方向に表
示が変化するとともに、明るくな
ります。

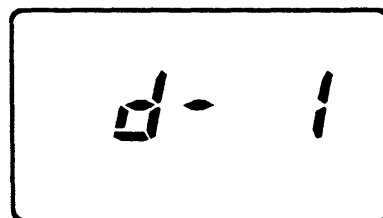


●デイマー表示



(初期設定値)

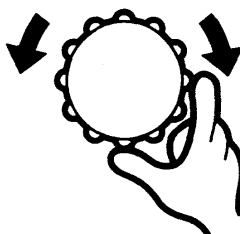
●デイマー表示



暗くなる

2 トーン周波数の設定

トーンスケルチ運用時のトーン
周波数を選択することができます。
ダイヤルツマミを回すと、下表の
ようにトーン周波数が変わります。



●トーン周波数表示



(初期設定値)

●トーン周波数一覧表

(単位：Hz)

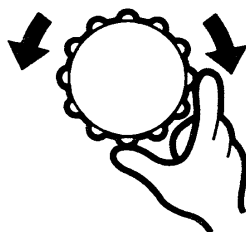
67.0	91.5	123.0	162.2	189.9	229.1
69.3	94.8	127.3	165.5	192.8	233.6
71.9	97.4	131.8	167.9	196.6	241.8
74.4	100.0	136.5	171.3	199.5	250.3
77.0	103.5	141.3	173.8	203.5	254.1
79.7	107.2	146.2	177.3	206.5	—
82.5	110.9	151.4	179.9	210.7	—
85.4	114.8	156.7	183.5	218.1	—
88.5	118.8	159.8	186.2	225.7	—

3 オフセット周波数の設定

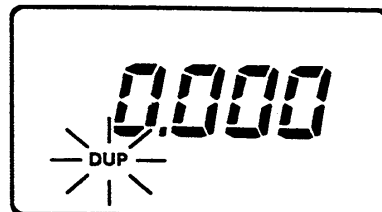
デュプレックス運用時の送信周波数と受信周波数の差(オフセット周波数)を設定することができます。

ダイヤルツマミを回すと、“0.000～4.000MHz”の間でオフセット周波数が変化します。

※1MHzステップの可変動作(→P13)を利用することもできます。



●オフセット周波数表示

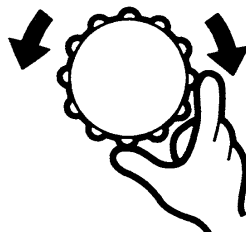


(初期設定値)

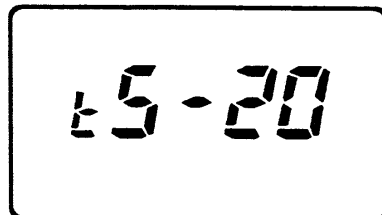
4 チューニングステップの設定

周波数を設定したり、スキャンするときのステップ幅を選択できます。

ダイヤルツマミを回すと、“5/10/12.5/15/20/25/30/50kHz”とステップ幅が変化します。



●チューニングステップ表示

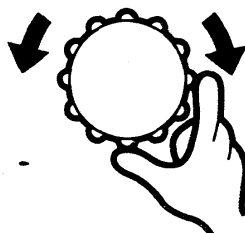


(初期設定値)

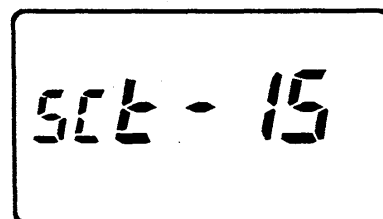
5 SETモード

5 スキャンストップタイムの設定

スキャン動作中に、信号を受信して一時停止したあと、再スタートするまでの条件を選択できます。ダイヤルつまみを回すと、下表のように再スタートの条件を切り換えることができます。



●スキャンストップタイム表示

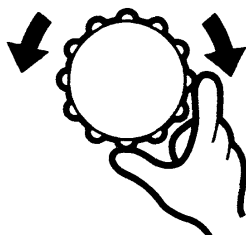


(初期設定値)

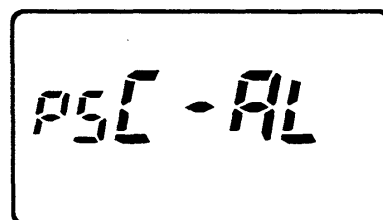
set - 5	一時停止してから約5秒後に再スタートします。
set - 10	一時停止してから約10秒後に再スタートします。
set - 15	一時停止してから約15秒後に再スタートします。
scP - 02	信号が続くかぎり一時停止し、信号が途切れると約2秒後に再スタートします
set - EP	信号の出ていない周波数で一時停止し、信号を受信すると再スタートします。

6 プログラムスキャン範囲の設定

プログラムスキャン用メモリーチャンネルに書き込んだスキャン範囲を選択できます。ダイヤルつまみを回すと、下表のようにプログラムスキャン範囲を切り換えることができます。



●プログラムスキャン範囲表示



(初期設定値)

psc - AL	バンド内をフルスキャンします。
psc - 1A	メモリーチャンネル“1A”と“1b”に指定された周波数範囲をスキャンします。
psc - 2A	メモリーチャンネル“2A”と“2b”に指定された周波数範囲をスキャンします。
psc - 3A	メモリーチャンネル“3A”と“3b”に指定された周波数範囲をスキャンします。

7 メモリーの使用範囲の設定

メモリーチャンネルの使用する範囲を任意に設定できます。

①ダイヤルつまみを回して、メモリーチャンネルの上限を設定します。

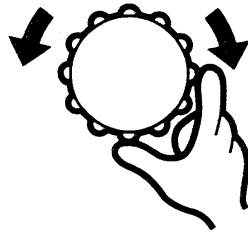
②SETスイッチを押します。

③ダイヤルつまみを回して、メモリーチャンネルの下限を設定します。

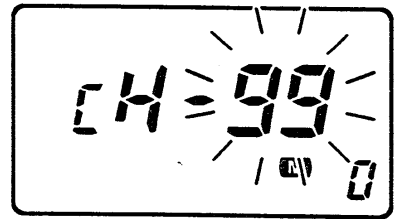
※ダイヤルつまみで点滅している方の数値が変更できます。

※数値は入れ替わってもかまいません。

※使用範囲を限定すると、範囲外のメモリーチャンネルは、スキャンから除外されます。また、呼び出し操作もできません。

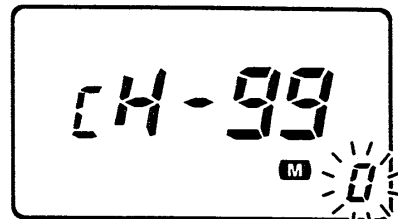


●メモリー使用範囲の上限表示



(初期設定値)

●メモリー使用範囲の下限表示



(初期設定値)

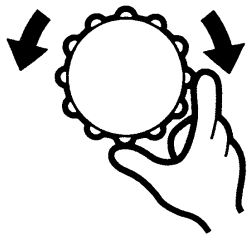
8 スキップチャンネルの設定

メモリースキャン時に、スキャンしなくてもよいメモリーチャンネルを設定できます。

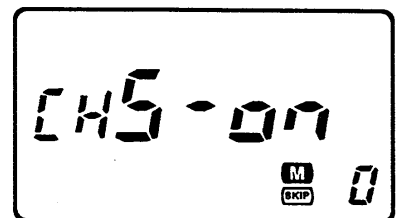
メモリーモード時のみ表示されます。

ダイヤルつまみを回して、スキップ表示を点灯させる時は、“CHS-ON”、消灯させるときは、“CHS-OFF”を選択します。

(SKIP)表示を点灯させることにより、スキップチャンネルが指定されます。

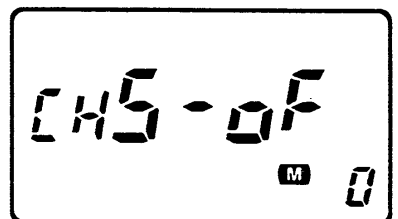


●スキップ“ON”表示



(初期設定値)

●スキップ“OFF”表示



6

メモリーの使いかた

6-1 メモリーについて

メモリーチャンネル(M-CH)は、“0~99”の100CHと、プログラムスキャンの上/下限周波数用に6CH、およびコールチャンネルが1CHあります。

各M-CHの用途は、次のようになっています。

M-CH	用途
0~99CH	通常のM-CHとして使用できます。 周波数およびトーンを記憶します。*
1A/1b~3A/3b	プログラムスキャン用に使用します。 スキャンの上/下限周波数を3組記憶できます。
CALL-CH	バンドの呼び出し周波数が記憶されています。 通常のM-CHとしても使用できます。

※周波数以外に記憶できるデータ

- オフセット周波数
- トーン周波数
- トーンエンコーダーの“ON/OFF”指定
- トーンスケルチの“ON/OFF”指定 [オプション機能]

6-2 メモリーの使用範囲について

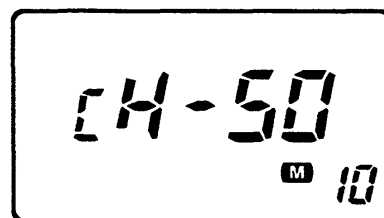
本機のM-CHは100CHありますが、M-CHの使用する範囲を限定することができます。SETモードのメモリーの使用範囲(☞P26)で設定することができます。

(例) 10CH~50CHの間で使用する場合

SETモードのメモリーの使用範囲の項目にし、上限に“50”、下限に“10”を設定します。

- “10~50”CH以外のM-CHは、呼び出しができなくなります。また、メモリスキャンから除外します。

●設定完了時の表示



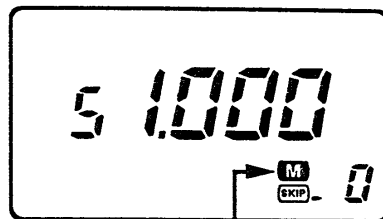
6-3 M-CHの呼び出しかた

1. ダイヤルつまミで呼び出す

- 1 M/CALLスイッチを押します。
メモリーモードの表示にします。

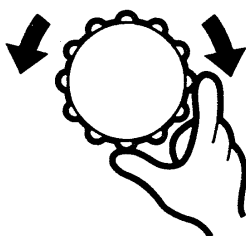


●メモリーモード表示



点灯する

- 2 ダイヤルつまミを回します。
右に回すと、M-CHがアップし、
逆に回すとダウンします。



●メモリーモード表示



M-CHが切り換わる

2. マイクのUP/DNスイッチで呼び出す

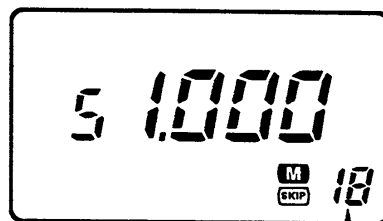
- 1 M/CALLスイッチを押します。
メモリーモードの表示になります。

- 2 マイクのUP/DNスイッチを押
します。
マイクのUPスイッチを押すと、
M-CHがアップし、DNスイッ
チを押すとダウンします。

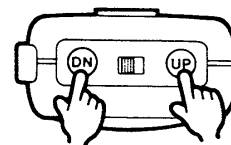


※スイッチを0.5秒以上押すと、
スキャン動作になります。
スキャン動作になった場合は、
再度UP/DNスイッチを押し
ます。

●メモリーモード表示



M-CHが切り換わる



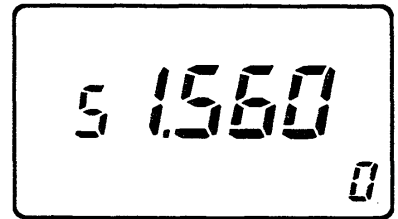
6 メモリーの使いかた

6-4 M-CHへの書き込みかた

(例) M-CH “8” に “51.560MHz” を書き込む場合

1 VFOモードにして、51.560 MHzをセットします。

●周波数をセット



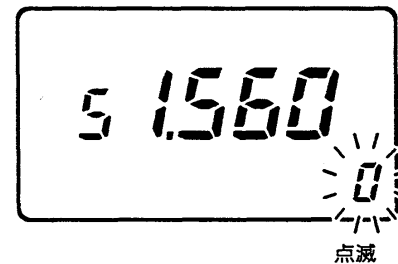
2 S.MWスイッチを短く(“ピッ”) 押します。

●M-CH表示が点滅します。

S.MW MW

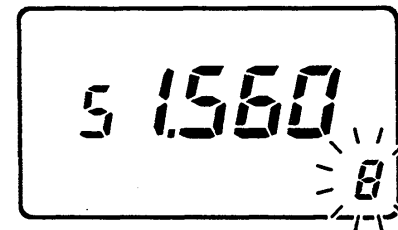
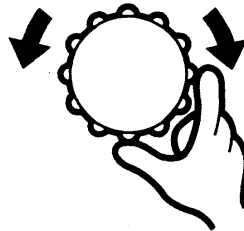


“ピッ”



3 ダイヤルつまみを回し、“8” CH にセットします。

●M-CHをセット



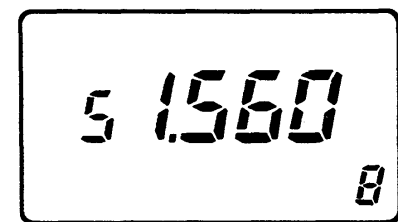
4 S.MW【MW】スイッチを約0.5秒(“ピッピピ”)押します。

●“8” CHに“51.560MHz”が書き込まれます。

S.MW MW



“ピッピピ”



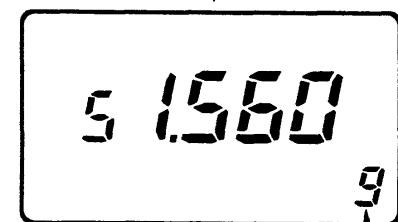
メモリーに書き込む

◎上記4の操作で、S.MWスイッチを約1秒(“ピッピピ、ピー”)押すと、書き込みしたのち自動的にM-CHが1つ進みます。

S.MW MW



“ピッピピ、ピー”

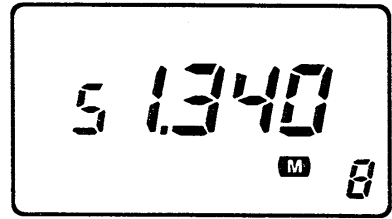


書き込み後、M-CHを自動的に1CHアップする

■M-CHの内容を確認しながら書き込むときは、

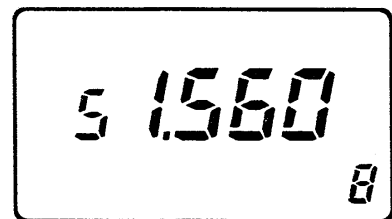
すでに記憶されているM-CHの内容をこわさないように、メモリーの内容を確認しながら書き込むこともできます。

- 1 メモリーモードにします。
ダイヤルつまみまたはマイクのUP/DNスイッチで書き込みするM-CHを呼び出します。
●M-CHの内容を確認します。



前回の記憶内容

- 2 VFOモードにします。
書き込みたい周波数をセットします。

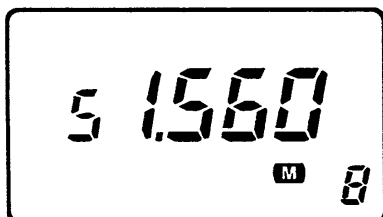


- 3 S.MW [MW] スイッチを約0.5秒(“ピッピピ”)押します。

6-5 メモリーの内容をVFOで使うには

- 1 M/CALLスイッチを押して、メモリーモードにします。
- 2 ダイヤルつまみまたはマイクのUP/DNスイッチで、希望するM-CHをセットします。
- 3 S.MW [MW] スイッチを約0.5秒(“ピッピピ”)押します。

●メモリー呼び出し

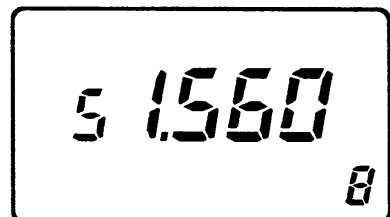


S.MW MW



“ピッピピ”

●VFOモード



※M-CHの内容がVFOに転送され、VFOモードになります。

6 メモリーの使いかた

6-6 スキップチャンネルの指定のしかた

メモリスキャン(☞P39)時に、スキャンに不要なM-CHは、次の操作で、スキップを指定しておくことができます。

(例) M-CH “15” にスキップを指定する

1 M/CALLスイッチを押して、メモリーモードにします。

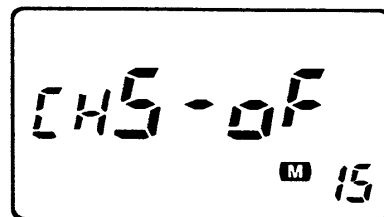
2 ダイヤルツマミまたはマイクのUP/DNスイッチで、M-CH “15” をセットします。

3 SETスイッチを押して、SETモードにします。
さらに、SETスイッチを数回押して、「スキップチャンネルの指定」の項目を選びます。

SET LOCK

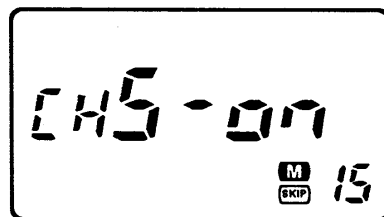
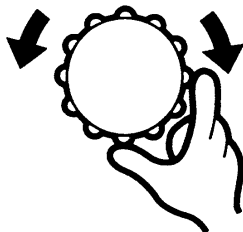


●スキップチャンネルの指定表示



4 ダイヤルツマミを回してスキップの指定をします。

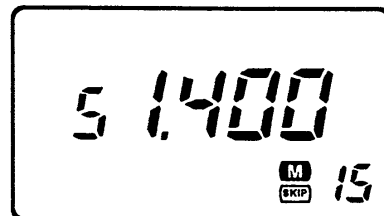
- cHS-on : スキップを指定する
- cHS-oF : スキップを解除する



5 SETまたはS.MW以外のスイッチを押すと、SETモードは解除され、元の周波数に戻ります。



●周波数表示



例、LOWスイッチを押す

6-7 コールチャンネルの使いかた

コールチャンネルは、各バンドで決められた呼び出し周波数(非常通信周波数)が書き込まれています。また、メインチャンネルとも呼ばれています。

コールチャンネルは、通常のメモリーチャンネルと同様に、自由に書き換えることができます。50MHz帯のコールチャンネルは、51.000MHzです。

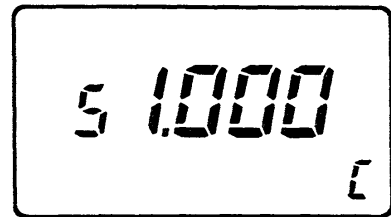
1. コールチャンネルを呼び出す

M/CALLスイッチを押して、コールチャンネルモードにします。

※VFOモードからコールチャンネルモードにするときは、M/CALLスイッチを2回押します。



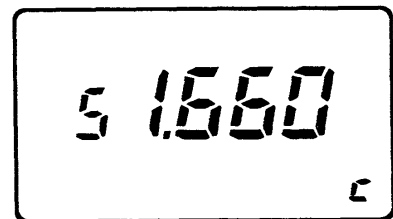
●コールチャンネル表示



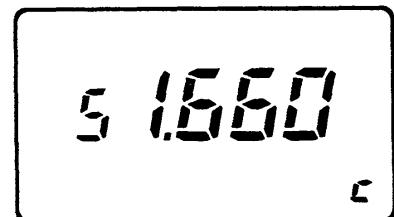
2. コールチャンネルの書き換えかた

1 上記の「コールチャンネルを呼び出す」にしたがって、コールチャンネルを呼び出します。

2 V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。希望の周波数をセットします。(例.51.660MHz)



3 S.MW [MW] スイッチを約0.5秒(“ピッピピ”)押します。



6 メモリーの使いかた

6-8 LOG(ログ)メモリー機能について

ログメモリー機能は、運用(送信)した周波数を自動的に記憶する機能で、シンプレックス用に5CH(L1~L5)、デュプレックス用に5CH(r1~r5)あります。

ログメモリー機能は、VFOモードで送信した周波数を順次5CHまで記憶し、5CH以上になると古い順に消去していきます。

また、ログメモリーに同じ周波数を書き込んだ場合は、ログメモリーの“L1”または“r1”に書き直し再記憶します。

ご注意

初期設定(出荷時の状態)では、ログメモリーチャンネルを呼び出すことはできません。ログメモリーは、VFOモードで送信操作を行うことにより書き込まれ、呼び出すことができます。

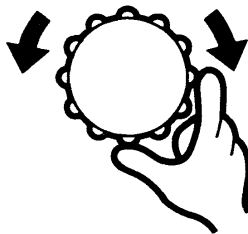
1. ログメモリーチャンネルを呼び出す

1 M/CALLスイッチを押して、コールチャンネルモードにします。

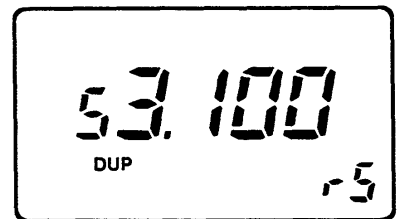
2 ダイヤルツマミを右に回すとデュプレックス用、逆に回すとシンプレックス用のログメモリーチャンネルが呼び出されます。

※マイクのUP/DNスイッチで呼び出すこともできます。

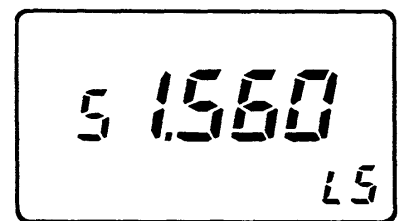
- UPスイッチ：デュプレックス用ログメモリーチャンネルを呼び出します。
- DNスイッチ：シンプレックス用ログメモリーチャンネルを呼び出します。



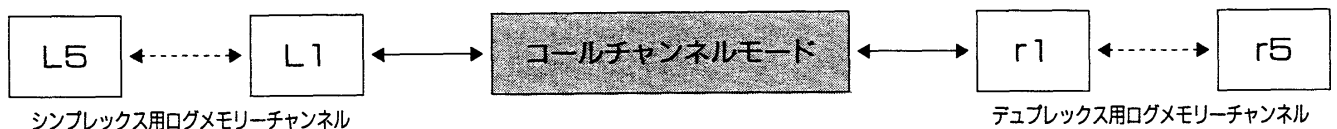
- デュプレックス用ログメモリーチャンネル表示



- シンプレックス用ログメモリーチャンネル表示



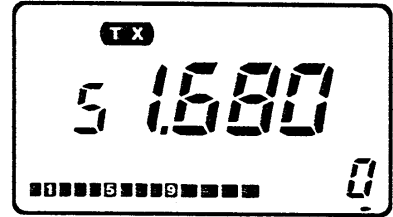
- ログメモリーチャンネルの切り換わりかた



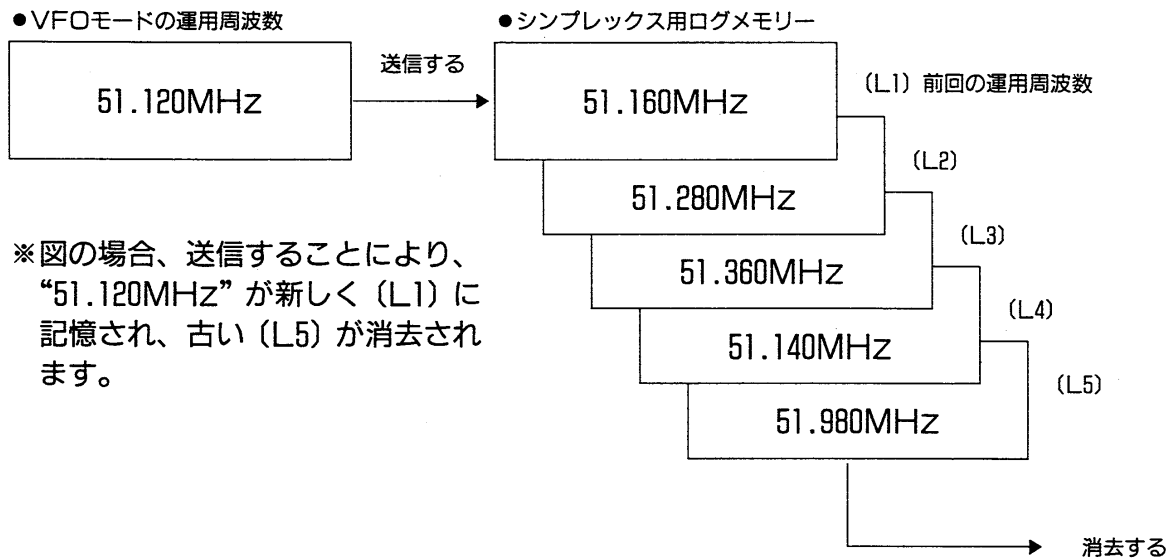
2. ログメモリーチャンネルへの書き込みかた

VFOモードで運用周波数を設定し、送信操作を行うことにより、自動的に書き込まれます。

- (1)VFOモードで運用周波数を設定します。
- (2)マイクのPTTスイッチを押して、送信操作を行います。



■ログメモリー機能の動作例(シンプレックス操作の場合)



■ログメモリーの送信操作について

上記のログメモリー(L5)を呼び出し、送信操作を行った場合は、(L5)の内容を(L1)に再記憶して、送信します。

(L1)から(L4)の内容は、(L2)から(L5)にそれぞれ繰り下げ再記憶します。

■周波数以外にログメモリーが記憶するデータ

- オフセット周波数
- トーン周波数
- トーンエンコーダーの“ON/OFF”指定
- トーンスケルチの“ON/OFF”指定(オプション機能)

7-1 スキヤンについて

スキヤンとは、周波数やメモリーチャンネルを自動的に切り換えて、信号の出ているところを探す機能です。

スキヤンの名称	機 能	動 作
プログラムスキヤン (☞P36)	あらかじめ指定した周波数範囲をスキヤンします。	①スキヤンスタート後信号を受信すると、一時停止します。 ②信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約15秒後に再スタートします。なお、再スタートの条件はSETモード(☞P25)で選択できます。
メモリーチャンネル (☞P39)	すべてのメモリーチャンネルをスキヤンします。 なお、スキップが指定(☞P31)されたメモリーチャンネルは飛び越えてスキヤンします。	
プライオリティスキヤン (☞P40)	VFOモードの周波数を受信しながら一定間隔での他の周波数(メモリーチャンネルまたはコールチャンネル)を受信します。	①VFOモードの周波数を約5秒後間受信し、他の周波数を瞬間受信します。 ②他の周波数を受信したときに信号を受けると、約15秒間受信し続けます。

7-2 スキヤン操作をする前に

- ①スキヤン操作をする前に、必ずスケルチを調整(☞P11)してください。
- ②プログラムスキヤン時のステップ幅は、あらかじめ設定されたステップ幅(☞P14)でスキヤンします。
- ③スキヤン中にダイヤルツマミを回して、スキヤン方向を切り換えることができます。また、スキヤンが一時停止しているときに、ダイヤルツマミを回すと、回した方向にスキヤンが再スタートします。
- ④スキヤン操作を行うときは、トーンスケルチ機能を“OFF”にしておきます。
- ⑤スキヤンの解除は、TONE[SCAN]スイッチまたはマイクのUP/DNスイッチを押すことで解除しますが、V/MHzやDUPスイッチでも解除できます。

7-3 プログラムスキヤンのしかた

あらかじめプログラムスキヤン用メモリーチャンネルに上限周波数と下限周波数を設定しておきます。

プログラムスキヤン用メモリーチャンネル(1A/1b, 2A/2b, 3A/3b)には、そのバンドの上限周波数と下限周波数が初期設定されています。

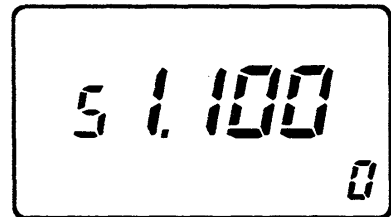
(初期設定状態では、フルスキヤン動作になります。)

1. 上限周波数と下限周波数を設定する

(メモリーの書き込み→P29参照)

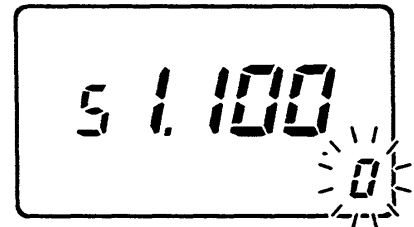
- 1** VFOモードにしておきます。
 “1A” CHに書き込む下限周波数をセットします。
 (例.51.100MHz)

●下限周波をセット

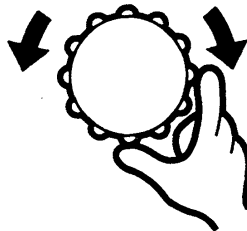


- 2** S.MWスイッチを押します。
 ●M-CH表示が点滅します。

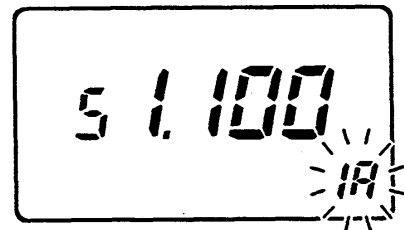
S.MW MW



- 3** ダイヤルツマミで“1A” CHをセットします。

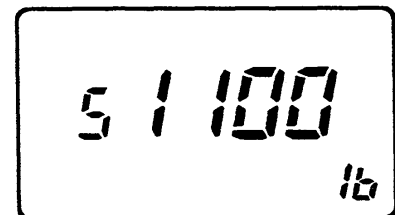


●“1A”CHをセット



- 4** S.MW[MW]スイッチを約1秒 (“ピッピピ、ピー”) 押します。
 ●下限周波数が“1A”CHに書き込まれ、“1b”CHの表示になります。
 “1b”に書き込む上限周波数をセットし、4の操作を行います。

S.MW MW



書き込み後、“1b” CHになる。

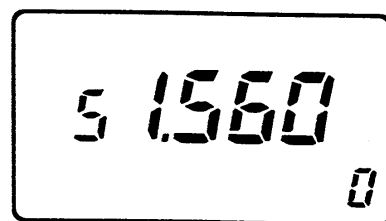
- 5** 上記1と4の操作を繰り返して行うことにより、“2A/2b, 3A/3b”にも、簡単に上限/下限周波数を書き込むことができます。

※上限/下限周波数は、“A/b”のどちらに書き込んでかまいません。

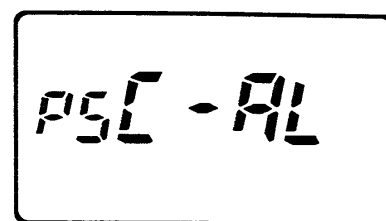
7 スキャンのしかた

2. プログラムスキャン範囲を設定する

- 1 V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。

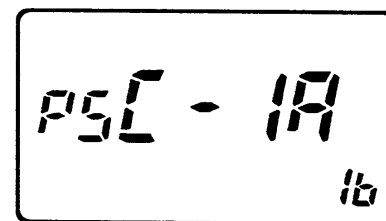
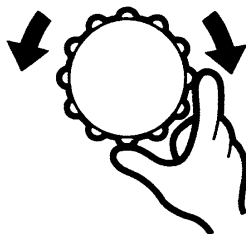


- 2 SETスイッチを押して、SETモードにします。
さらに、SETスイッチを数回押して「プログラムスキャン範囲の設定」の項目を選びます。



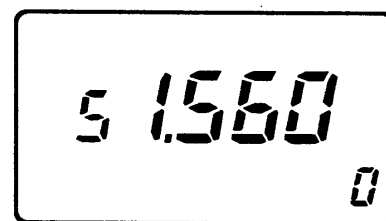
- 3 ダイヤルつまみを回して、希望するスキャン範囲を選びます。

- ※ 下記のスキャン範囲を選ぶことができます。
- ※ スキャンをスタートさせてから、スキャン範囲を選ぶこともできます。(P38)



- psC-AL : バンド間をフルスキャンします。(初期設定状態)
- psC-1A : メモリーチャンネル "1A", "1b" に記憶した周波数範囲をスキャンします。
- psC-2A : メモリーチャンネル "2A", "2b" に記憶した周波数範囲をスキャンします。
- psC-3A : メモリーチャンネル "3A", "3b" に記憶した周波数範囲をスキャンします。

- 4 SETまたはS.MW以外のスイッチを押すと、SETモードが解除され、元の周波数に戻ります。



例. LOWスイッチを押す

3. プログラムスキヤンのスタートと解除

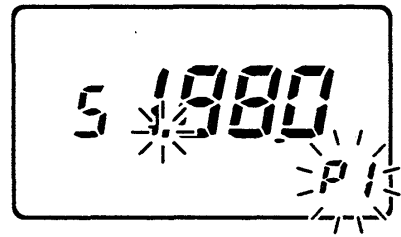
1 TONE [SCAN] スイッチを約1秒以上押す、またはマイクのUP/DNスイッチを約0.5秒以上押すと、スキヤンがスタートします。

※スキヤン中はデシマルポイントとスキヤン範囲表示が点滅します。



“ピッ、ピー”

●スキヤン中の表示



デシマルポイントとスキヤン範囲表示が点滅する

◎スキヤン範囲の切り換えかた
スキヤン動作中に、SETスイッチを押します。
押すごとに、“AL” “P1” “P2” “P3” の表示が切り換わります。

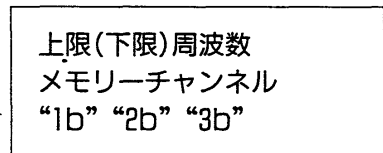
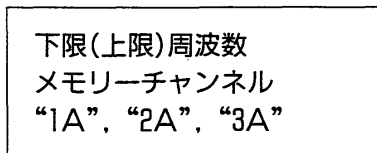
SET LOCK



●スキヤン範囲表示

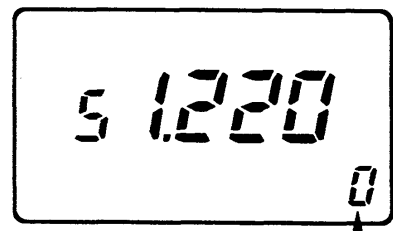
- AL：フルスキヤン
- P1：1A～1bのスキヤン
- P2：2A～2bのスキヤン
- P3：3A～3bのスキヤン

●プログラムスキヤン動作



- ①スキヤンスタート後、信号を受信すると一時停止します。
- ②信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約15秒後に再スタートします。
再スタートの条件は、SETモード(☞P25)で選択することができます。

2 TONE [SCAN] スイッチまたはマイクのUP/DNスイッチを押すと、スキヤンは解除されます。



スキヤン範囲表示が通常のメモリーチャンネル表示に戻る

7 スキャンのしかた

7-4 メモリー(スキップ)スキャンのしかた

メモリースキャンとは、メモリーチャンネルに記憶されている周波数を順次切り換えて、信号を探し出すスキャンです。

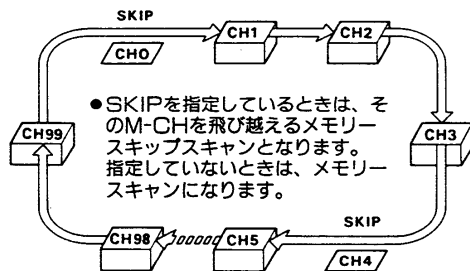
なお、メモリーチャンネルにスキップが指定(☞P31)されているチャンネルは、飛び越えてスキャンします。

A メモリー(スキップ)スキャンのスタートと解除

1 M/CALLスイッチを押して、メモリーモードにします。

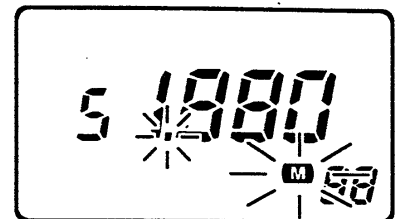
2 TONE [SCAN] スイッチを約1秒以上押す、またはマイクのUP/DNスイッチを約0.5秒以上押すと、スキャンがスタートします。

●メモリー(スキップ)スキャン動作



“ピッ、ピー”

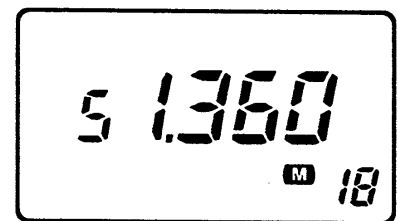
●スキャン中の表示



デシマルポイントと(M)表示が点滅する

- ①スキャンスタート後、信号を受信すると一時停止します。
- ②信号が途切れると約2秒後、信号が続いているときは約15秒後に再スタートします。再スタートの条件は、SETモード(☞P25)で選択することができます。

3 TONE [SCAN] スイッチまたはマイクのUP/DNスイッチを押すと、スキャンは解除されます。



点滅から点灯に戻る

●メモリー(スキップ)スキャン時のご注意

- ①初期設定状態では、すべてのメモリーチャンネルに(SKIP)が指定されていますので、メモリースキャンは動作しません。
- ②SETモード(☞P23)でメモリー使用範囲の設定(☞P26)を行った場合は、設定した範囲だけのスキャンとなります。
- ③スキップチャンネルの指定または解除は(☞P31)をご覧ください。

7-5 プライオリティスキヤンのしかた

プライオリティスキヤンとは、VFO周波数と指定のメモリーチャンネル/コールチャンネルを交互にスキヤンします。

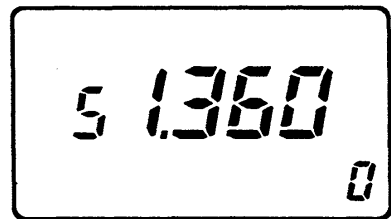
種 類	動 作
VFOとメモリーチャンネル	VFOモードの周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のメモリーチャンネルを瞬間受信します。
VFOとメモリースキヤン	VFOモードの周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、一定間隔でメモリーチャンネルを“0~99”まで順番に受信します。
VFOとコールチャンネル	VFOモードの周波数を約5秒間受信(ワッチ)しながら、指定のコールチャンネルを瞬間受信します。

1. プライオリティスキヤンの種類を設定する

プライオリティスキヤンには、上記の3種類がありますので、スタートする前に次のように運用状態を設定しておく必要があります。

A VFOとメモリーチャンネルで行うときは

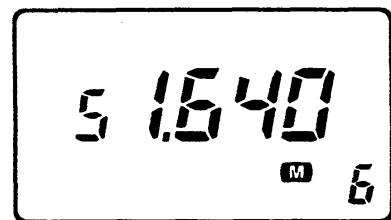
- 1** V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。
ダイヤルつまみまたはマイクのUP/DNスイッチで、希望の周波数をセットします。



- 2** M/CALLスイッチを押して、メモリーモードにします。
ダイヤルつまみまたはマイクのUP/DNスイッチで、希望のメモリーチャンネルをセットします。



●メモリーモードにする



7. スキャンのしかた

■ VFOとメモリースキャンで行うときは

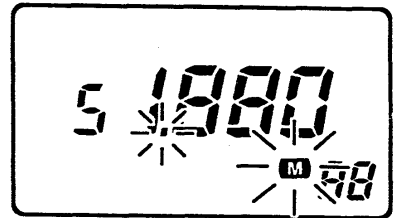
- 1 V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。
ダイヤルツマミまたはマイクのUP/DNスイッチで、希望の周波数をセットします。

- 2 (1)M/CALLスイッチを押して、メモリーモードにします。
(2)TONE [SCAN] スwitchを約1秒以上押して、メモリースキャンをスタートさせます。
または、マイクのUP/DNスイッチを約0.5秒以上押してメモリースキャンをスタートさせます。



“ピッ、ピー”

●メモリースキャンにする



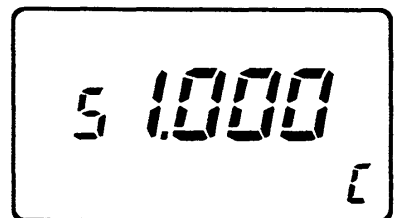
■ VFOとコールチャンネルで行うときは

- 1 V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。
ダイヤルツマミまたはマイクのUP/DNスイッチで、希望の周波数をセットします。

- 2 M/CALLスイッチを押して、コールチャンネルモードにします。



●コールチャンネルにする



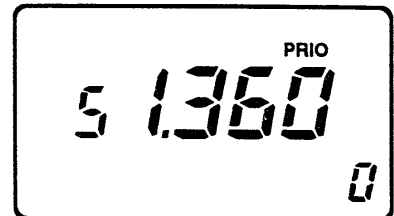
2. プライオリティスキャンのスタートと解除

1 前記「A~C」の操作にしたがって、プライオリティスキャンの種類を選びます。

2 M/CALL [PRIO] スイッチを約1秒以上押すと、プライオリティスキャンがスタートします。

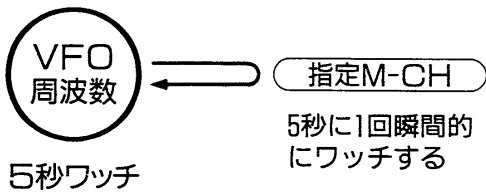


●スキャン中の表示

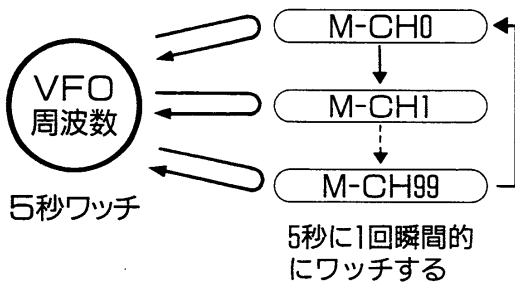


“PRIO”表示が点灯する

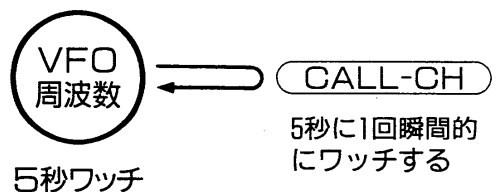
●VFOとメモリーチャンネルの動作



●VFOとメモリースキャンの動作



●VFOとコールチャンネルの動作



- ①メモリーチャンネルまたはコールチャンネルで信号を受信したときは、約15秒間一時停止し、その後再スタートします。
再スタートの条件は、SETモード(☞P25)で選択することができます。
- ②プライオリティスキャン中でも送信操作ができますが、VFOモードの周波数で送信されます。
送信終了時は、VFOモードの周波数からスキャンが再スタートします。
- ③VFOモードの周波数を表示しているときは、VFOの周波数の変更ができます。

3 M/CALLスイッチを押すと、スキャンは解除されます。

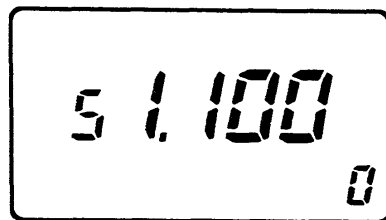
8-1 デュプレックス運用のしかた

デュプレックス運用とは、送信と受信を違った周波数で運用するモードです。

- 1 V/MHzスイッチを押して、VFOモードにします。

- 2 受信周波数を設定します。
(例.51.100MHz)

●受信周波数表示

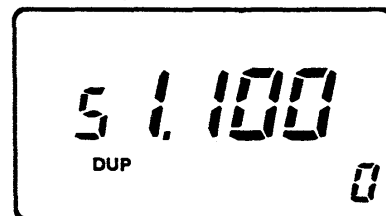


- 3 DUPスイッチを押して、“DUP”または“DUP-”を設定します。
(例.DUP(プラスシフト)設定)

- DUP : 受信周波数より、送(プラスシフト) 信周波数がオフセット周波数だけ高くなります
- DUP- : 受信周波数より、送(マイナスシフト) 信周波数がオフセット周波数だけ低くなります。



●DUP(プラスシフト)表示



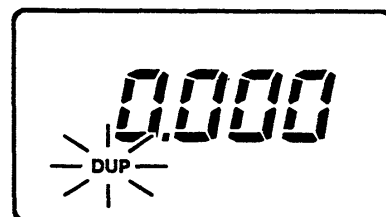
- 4 SETスイッチを押して、SETモードにします。
SETスイッチを数回押して、「オフセット周波数の設定」の項目を選びます。

※S.MWスイッチで設定項目が逆に進みます。

SET LOCK

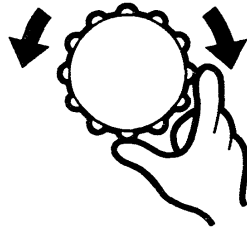


●オフセット周波数表示

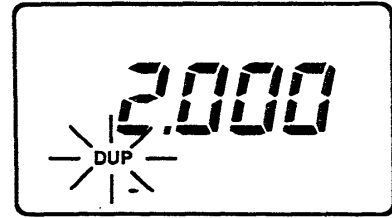


0.000MHz(初期設定値)が表示される

5 ダイヤルツマミを回して、オフセット周波数を設定します。
(例.2MHzに設定)



●2MHzの設定表示



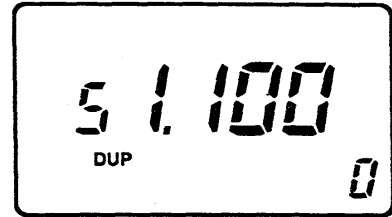
6 SET/S.MWまたはV/MHz以外のスイッチを押すと、SETモードは解除され、周波数表示に戻ります。

※V/MHzスイッチを押すと、1MHzステップで、オフセット周波数が設定できます。



例. LOWスイッチを押す

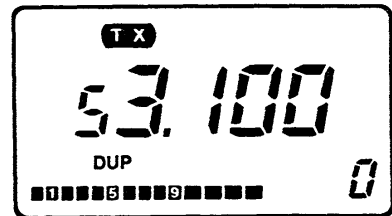
●SETモードに入る前の表示に戻る



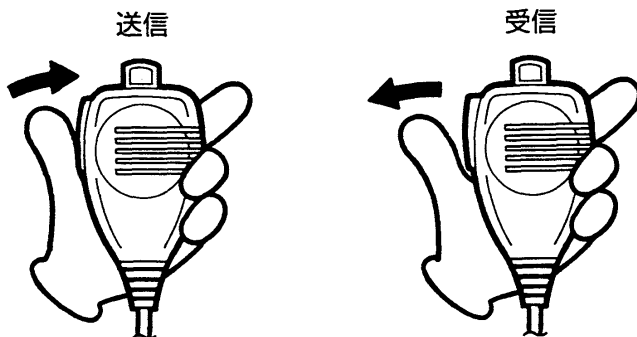
7 マイクのPTTスイッチを押しながら、マイク部に向かって話します。PTTスイッチを離すと、受信状態に戻ります。

- 以上の操作により、
受信：51.100MHz、
送信：53.100MHzのデュプレックス運用ができます。

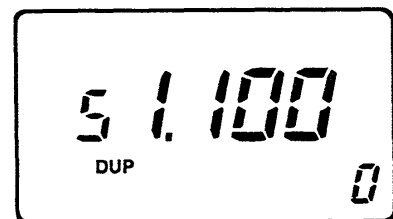
●送信表示



送信周波数：53.100MHzが表示される



●受信表示



受信周波数：51.100MHzが表示される

オフセット周波数の設定をまちがえたために、オフバンド(帯域外の周波数になる)することがあります。この場合は、送信したときディスプレイが“OFF”表示になります。

8 その他の機能と使いかた

8-2 データ通信の運用

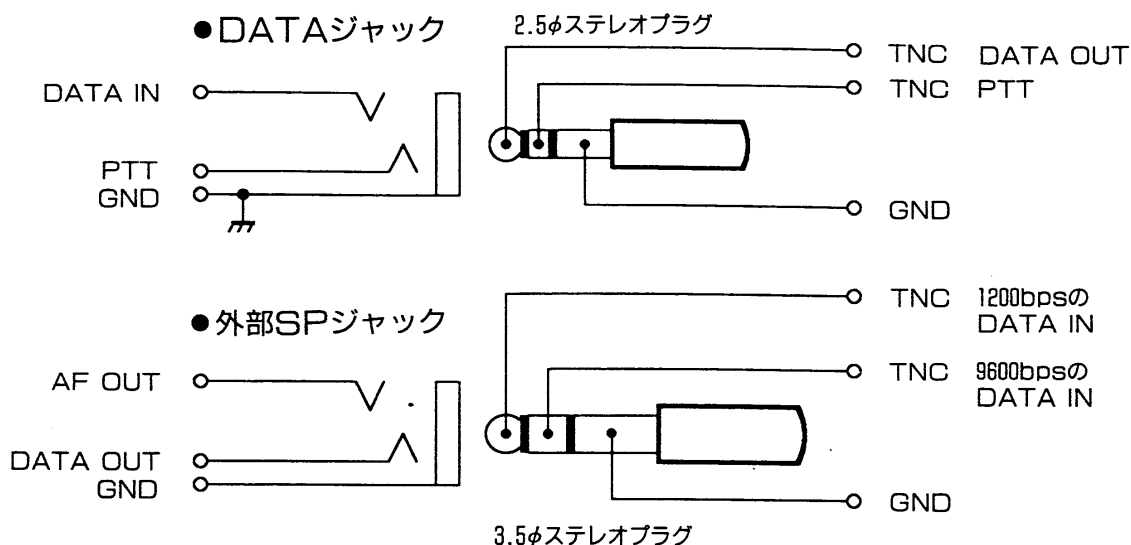
パケット通信の接続に便利なDATA端子を設け、前面パネルのDUP [DATA] スイッチにより、9600bpsの高速伝送速度にも対応しています。

1. 接続のしかた

TNC(パケット通信)と本機の接続は、後面パネルのDATA端子と外部スピーカー端子を使用します。

DATA端子は、2.5φステレオプラグ、外部スピーカー端子は、3.5φのステレオプラグを用いて接続します。

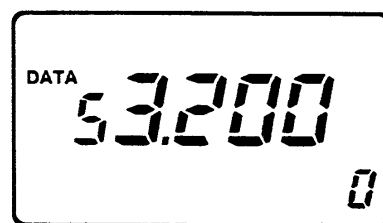
●接続図



2. データ通信のしかた

1 DUP [DATA] スイッチを約1秒以上押すと、“DATA”表示が点灯し、9600bpsのパケット通信に対応します。

- DATA表示点灯：9600bpsに対応
- DATA表示消灯：1200bpsに対応



※1200bpsで運用するときは、必ず“DATA”表示が消灯していることを、確認してください。このとき、前面パネルに接続している、マイクロホンも外しておきます。

2 周波数を設定し、運用を行ってください。

■TNC(送信信号出力調整)について

9600bps運用時は、専用のリミッター回路を設け、送信信号出力が一定レベル(約1.3Vp-p)以上あるときは、送信禁止となっています。

したがって、TNC側で送信信号出力を調整してください。

1. レベルメーターまたは、シンクロスコープによる調整

TNCのチェック用信号の送出コマンド(CALなど)を用いて、TX Audioライン(DATA IN)のレベルを測定し、下記の規定レベルになるように、TNC内蔵のボリューム、または直列抵抗を挿入して調整してください。

- 0.3Vp-p~1.2p-p(0.1Vrms~0.43Vrms)
(推奨値1.0Vp-p(0.35Vrms))

2. 測定器などがない場合

- TNCと本機を接続し、TNCのチェック用信号の送出コマンド(CALなど)を用いて、送信状態にします。
- 連続送信しない場合(TX表示が点灯しない、またはTX表示点滅時)は、リミッター回路が動作していますので、適正レベルになるようにTNC側のレベルを調整(レベルダウン)します。
- 連続送信する場合(TX表示点灯時)は、RBBSなどにアクセスし、アクセスできないときは、送信信号出力レベルが不足していますので、連続送信できる範囲で、適正レベルになるようにTNC側のレベルを調整(レベルアップ)します。
- リトライが多いようであれば、再度レベル調整を行ってください。

■運用時のご注意

“DATA”表示点灯時は、全面パネルのマイクコネクターのマイク信号入力端子を遮断していますので、マイクロホンを接続しても、音声は出力されません。

通常の運用モードで運用するときは、必ずDUP [DATA] スイッチを約1秒以上押して、“DATA”表示を消灯させてください。

8 その他の機能と使いかた

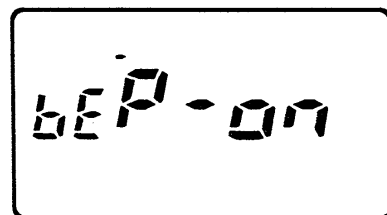
8-3 オートパワーオフ機能について

電源の切り忘れを防止する機能です。

運用が完了し、何も操作しない状態が、イニシャルセットモード(☞P20)で設定した時間になると、ビープ音が5回鳴り、本機の電源を切ります。

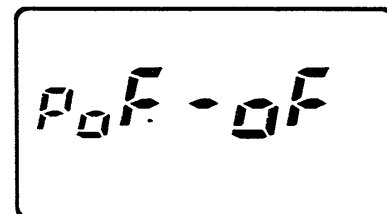
1. オートパワーオフ機能の設定

- 1 (1)POWERスイッチで電源を切ってください。
(2)SETスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。
イニシャルセットモードの表示になります。



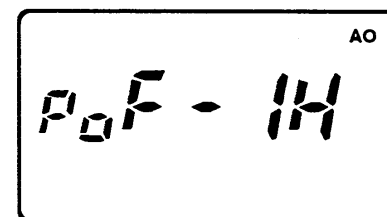
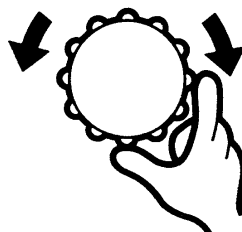
- 2 SETスイッチを数回押して『オートパワーオフ機能の設定』の項目を選びます。

SET LOCK



- 3 ダイヤルツマミを回して、オートパワーオフの設定時間を選びます。

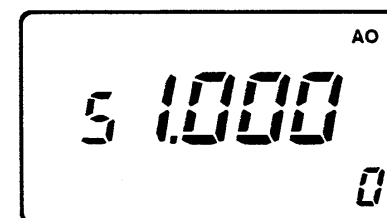
※30分/1時間/2時間の中から選ぶことができます。



- 4 POWERスイッチで電源を切り、再度電源を入れます。

※イニシャルセットモードに入る前の表示に戻り、オートパワーオフ機能が動作します。

POWER



8-4 ユーザーファンクション機能について

付属のマイク(HM-78)またはオプションマイク(HM-77)を使用して、前面パネルのスイッチ機能を、マイクのUPまたはDNスイッチで操作することができる特殊機能です。

POWERスイッチ、ダイヤルつまみ、VOL(音量)つまみ、SQL(スケルチ)つまみを除くすべてに有効ですが、1機能だけしか選択することができません。

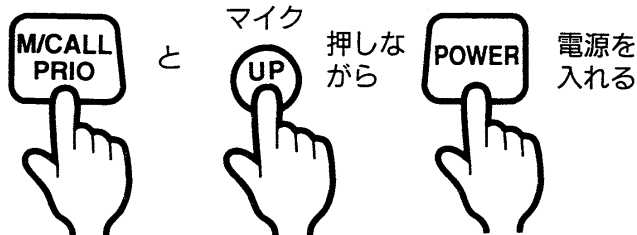
1. ユーザーファンクション機能の設定

(例. マイクのUPスイッチをM/CALL【PRIO】スイッチにするには)

1 POWERスイッチで電源を切ってください。

2 マイクのUPスイッチを前面パネルのM/CALLスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。

(操作例)

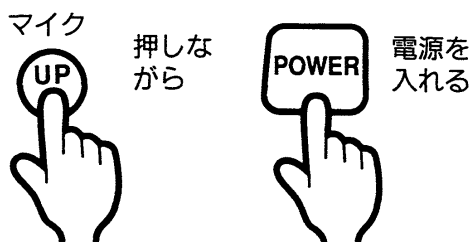


- 以後、マイクのUPスイッチを押すと、M/CALL【PRIO】スイッチと同じ動作をします。M/CALL【PRIO】スイッチの動作は(☞P4)をご覧ください。
このとき、DNスイッチは通常の操作ができます。
- 2の操作のときに、マイクのUPスイッチをDNスイッチにすると、以後マイクのDNスイッチが、M/CALL【PRIO】スイッチの動作になります。
このとき、UPスイッチは通常の操作ができます。

2. ユーザーファンクション機能の解除

1 POWERスイッチで電源を切ってください。

2 マイクのUPスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。



※DNスイッチで指定しているときは、DNスイッチを押しながら、電源を入れます。

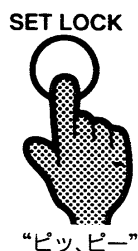
8 その他の機能と使いかた

8-5 周波数ロック機能について

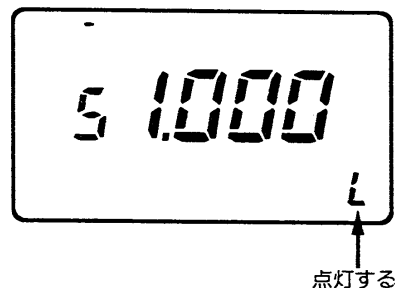
長時間同じ周波数で運用するときや、交信しているときに、まちがって周波数や機能が変わらないようにする機能です。

- 1 SET [LOCK] スイッチを約1秒以上押します。
メモリー表示部に“L”が点灯し、ロック機能が動作します。

※ [MONI] / SET [LOCK] スイッチまたは SQL / VOL ツマミ以外の操作は無効となります。



●ロック機能表示



- 2 周波数ロック機能を解除するときは、再度、SET [LOCK] スイッチを約1秒以上押してください。

8-6 ビープ音(操作音)について

スイッチを操作したときに、ビープ音で下記のようなことを知らせます。

- ①ピッ音……………1プッシュのスイッチ操作が正しく行われたとき
- ②ピッピー音……………約1秒以上のスイッチ操作が正しく行われたとき
- ③プッ音……………まちがったスイッチの操作をしたとき、または無効のとき
- ④ピッピピ音……………メモリーへの書き込みを完了したとき、またはメモリーチャンネルやコールチャンネルなどの内容をVFOモードに転送し終わったとき

ビープ音の音量は、VOL (音量) ツマミで調整した受信音に比例します。

ビープ音が鳴らないようにしたいときは、イニシャルセットモード(☞P19)で設定できます。

8-7 30秒タイマー機能について

下記のような操作をしたあとに 30秒間何も操作しなかったときは、30秒タイマー機能が動作して、自動的に以前の表示へ戻ります。

- ①1MHzステップの可変操作のとき
- ②SETモードに入ったとき

トーンスケルチおよびポケットビーブ機能を運用するときは、オプション(別売)のトーンスケルチユニットUT-85が必要です。

UT-85は、50波のトーン周波数でトーンスケルチ機能、ポケットビーブ機能の運用ができます。

■トーンスケルチ機能について

特定局(自局と同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、スケルチが開いて通話内容が聞こえますので、快適な待ち受け受信ができます。

■ポケットビーブ機能について

特定局(自局と同じトーン周波数を含んだ信号)の待ち受け受信中に呼び出しを受けると、30秒間ビーブ音(“ピロピロピロ”の連続音)が鳴り続け、同時に“(⋯)”を点滅させて知らせますので、聞き逃すことはありません。

呼び出しを受けたら、30秒以内にPTTスイッチを押して通話すると、ポケットビーブ機能は解除され、トーンスケルチ機能になります。

また、30秒以内に何もしなかったときは、ビーブ音は自動停止しますが、ディスプレイの“(⋯)”は点滅を続け、呼び出しを受けたことを知らせます。

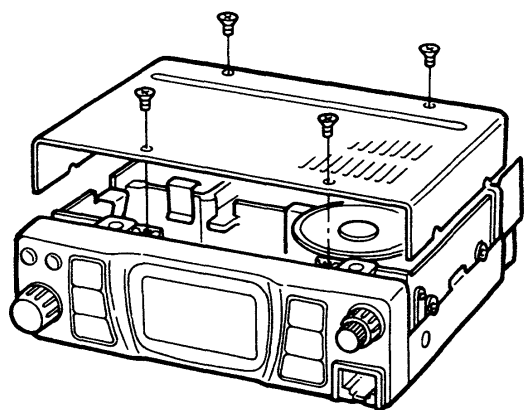
9-1 UT-85の取り付けかた

注. オプションユニットを取り付けるときは、必ず電源を切ってから行ってください。

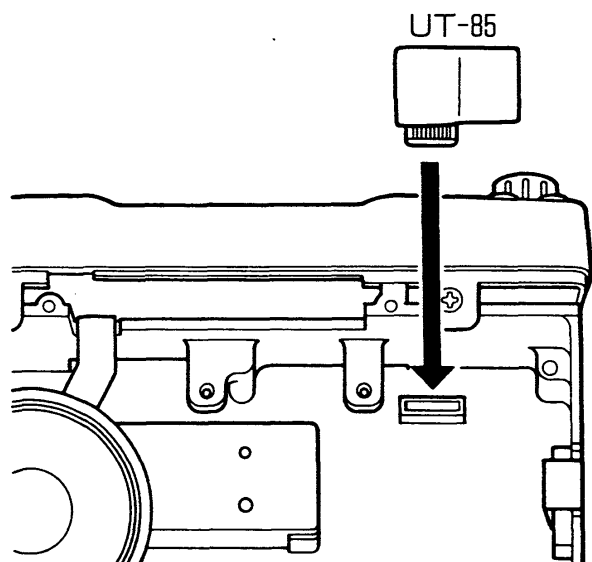
(1) 4本のビスを外して、上カバーを開きます。

(2) 取り付け図にしたがって、UT-85を取り付けてください。

● 上カバーの外しかた



● ユニットの取り付けかた



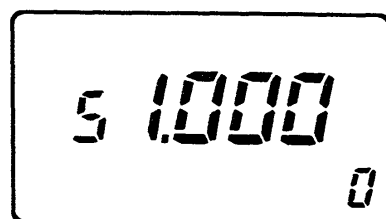
9 UT-85(オプション)の使い方

9-2 トーンスケルチ/ポケットビープの使いかた

- 1 あらかじめ交信相手局とトーン周波数を決めて、トーン周波数を設定します。
トーン周波数は、SETモード(☞P21,23)で選択します。

- 2 交信する周波数を設定します。

●通常運用モード

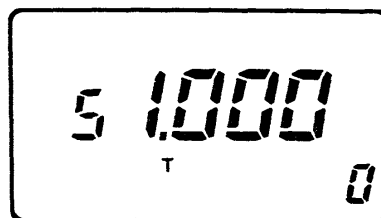


- 3 TONE [SCAN] スイッチを押します。

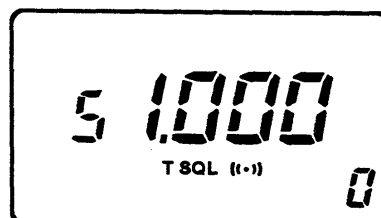
- 押すごとに、トーンエンコーダー・ポケットビープ機能・トーンスケルチ機能・通常運用モードと切り換わります。



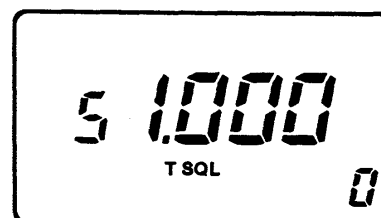
●トーンエンコーダー



●ポケットビープ機能



●トーンスケルチ機能



- 4 交信するときは、マイクのPTTスイッチを押して、相手局を呼びます。以後、通常の交信と同様に行います。

9-3 トーンスキャンについて

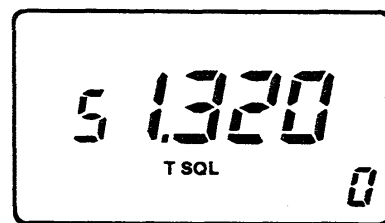
トーンスキャンは、特定周波数で使われているトーン周波数を探ることができるスキャンです。

このスキャンは、オプションのトーンスケルチユニット(UT-85)が必要です。

■トーンスキャンの操作

- 1** TONE [SCAN] スイッチを押し、トーンスケルチ運用モードにします。

※トーンスケルチ運用モード時は、“T SQL”表示が点灯します。

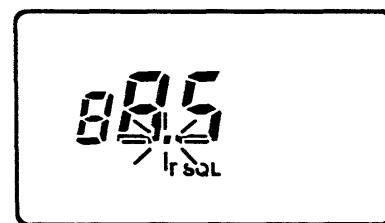


- 2** TONE [SCAN] スイッチを約1秒以上押し続けると、周波数表示部にトーン周波数表示に切り換わり、トーンスキャンが、スタートします。

※マイクからトーンスキャンのスタート操作はできません。



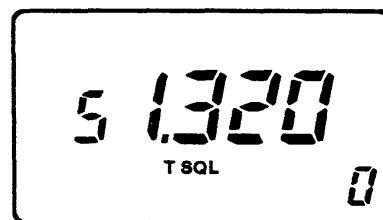
“ピッ、ピー”



■トーンスキャンの動作

- トーン周波数が一致すると、スキャンが一時停止し、トーン周波数を表示します。
なお、再スタートは信号を受信しなくなってから約2秒後にスタートします。
- 信号を受信していないときは、約15mSの高速でスキャンします。
- 信号を受信しているときは、40mSの低速になり、トーン周波数の検出を行います。

- 3** TONE [SCAN] スイッチを押すと、トーンスキャンは解除されます。
または、マイクのUP/DNスイッチを押します。



10 保守について

10-1 リセットについて

本機の電源を投入したとき、または運用中にCPUの誤動作や静電気の外部要因で、ディスプレイの表示内容がおかしくなった場合は、いったん電源を切り、数秒後にもう一度電源を入れてください。

それでも異常があれば、次のようにリセット操作を行ってください。

なお、リセット操作には下記のような機能があります。

1. オールメモリークリア機能

2. パーシャルリセット機能

1. オールメモリークリア機能

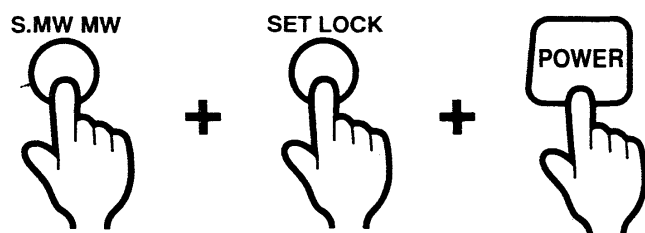
リセット操作を行った場合は、すべての操作モードが初期設定値（出荷時の状態）に戻りますので、運用に必要な情報をセットしなおしてご使用ください。

なお、初期設定値は(☞P54)のようにセットされています。

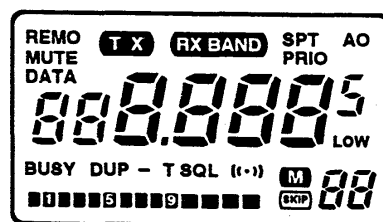
A オールメモリークリアのしかた

1 POWERスイッチで電源を切ってください。

2 SETスイッチとS.MWスイッチを同時に押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。

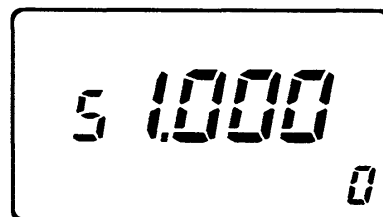


●すべてのセグメントが点灯する



3 SETスイッチとS.MWスイッチから指を離すと、出荷時と同じ表示に戻ります。

●出荷時の表示に戻る



B 初期設定値

表示周波数		51.000MHz
操作モード		VFOモード
メモリーチャンネル表示と周波数		チャンネル0
	0~99	51.000MHz
プログラムスキャン用メモリーチャンネルの周波数	1A	50.000MHz
	1b	54.000MHz
	2A	50.000MHz
	2b	54.000MHz
	3A	50.000MHz
	3b	54.000MHz
コールチャンネルの周波数		51.000MHz
ログメモリーチャンネルの周波数		消去される
送信出力		HIGH
イニシャルセットモードの内容		初期設定値に戻る
SETモードの内容		初期設定値に戻る

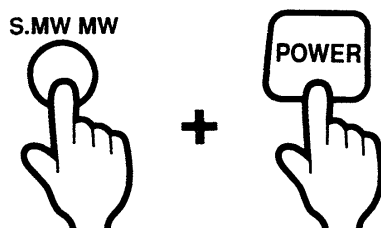
2. パーシャルリセット

メモリーチャンネル、プログラムスキャン用チャンネル、コールチャンネル、ログメモリーチャンネル、イニシャルセットモードの記憶内容を保持し、VFOモード、SETモードの内容を初期設定値(出荷時の状態)に戻します。

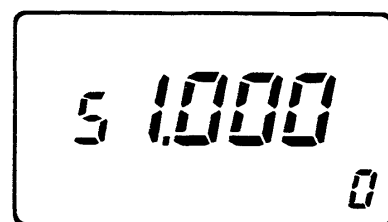
A パーシャルリセットのしかた

1 POWERスイッチで電源を切ってください。

2 S.MWスイッチを押しながら、POWERスイッチで電源を入れます。



● 出荷時の表示に戻る



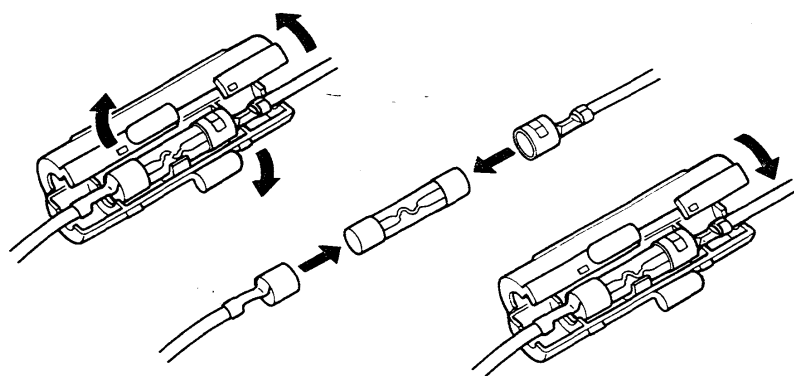
10 保守について

10-2 ヒューズの交換

ヒューズが切れ、本機が動作しなくなった場合は、原因を取り除いた上で、定格のヒューズと交換してください。

- ①DC電源コードのヒューズホルダーは下記の図を参照して、ホルダーを開けます。
- ②切れたヒューズを取りだし、新しいヒューズを元どおりに納めます。

●交換のしかた



●ヒューズの定格：5A

10-3 故障のときは

●保証書について

保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

●修理を依頼されるとき

『トラブルシューティング』にしたがってもう一度調べていただき、それでも具合の悪いときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。

修理することにより、機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

●アフターサービスについてわからないときは

お買い上げの販売店または弊社各営業所サービス係にご連絡ください。

本機の品質には万全を期しています。下表にあげた状態は故障ではありませんので、修理に出す前にもう一度点検をしてください。

下表にしたがって処置してもトラブルが起きるときや、他の状態のときは、弊社営業所のサービス係まで、その状況を具体的にご連絡ください。

状 態	原 因	処 置	参照
●電源が入らない	◎DC電源コードの接続不良 ◎電源の逆接続 ◎ヒューズの断線	●接続をやりなおす ●正常に接続し、ヒューズを取り換える ●原因を取り除き、ヒューズを取り換える	P8 P8 P55
●スピーカーから音が出ない	◎VOLつまみが反時計方向になっている ◎スケルチレベルが最大になっている ◎外部スピーカーの接続不良	●VOLつまみを調整する ●SQLつまみを調整する ●接続を点検し、正常にする	P11 P11 P6
●感度が悪く、強い局しか聞こえない	◎同軸ケーブルの断線またはショート	●同軸ケーブルを点検し、正常にする	P10
●電波が出ないか電波が弱い	◎同軸ケーブルの断線またはショート ◎送信出力が“LOW-1”または“LOW-2”になっている	●同軸ケーブルを点検し、正常にする ●LOWスイッチを押して、HIGHパワーにする	P10 P17
●変調がかからない	◎マイクコネクタの接続不良 ◎データ通信モードになっている(パケットの9600bps)	●コネクタの接続ピンを点検する ●DUP [DATA] スイッチを約1秒以上押して、データ通信モードを解除する	P6 P45
●周波数が設定できない	◎周波数ロック機能が“ON”になっている ◎メモリーまたはCALL-CHモードになっている	●SET [LOCK] スイッチを約1秒以上押して、周波数ロック機能を解除する ●V/MHzスイッチを押して、VFOモードにする	P49 P12
●1MHzステップの可変操作にならない	◎メモリーまたはCALL-CHモードになっている	●V/MHzスイッチを押して、VFOモードに戻し、再度V/MHzスイッチを押す	P12
●ディスプレイが異常な表示になる	◎CPUが誤動作している	●CPUのリセット操作を行う	P53

11 トラブルシューティング

状 態	原 因	処 置	参照
●プログラムスキャンが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ◎スケルチが開いている ◎メモリーまたはCALL-CHモードになっている ◎プログラムスキャン用メモリーチャンネル(1A,1b/2A,2b/3A,3b)に同じ周波数がメモリーされている 	<ul style="list-style-type: none"> ●SQLツマミを回して、雑音の消える位置にセットする ●V/MHzスイッチを押して、VFOモードにする ●プログラムスキャン用メモリーチャンネル(1A,1b/2A,2b/3A,3b)に違う周波数をメモリーする 	P11 P12 P36
●メモリー(スキップ)スキャンが動作しない	<ul style="list-style-type: none"> ◎スケルチが開いている ◎VFOモードまたはCALL-CHモードになっている ◎SETモードのメモリー使用範囲に同一のチャンネルが設定されている 	<ul style="list-style-type: none"> ●SQLツマミを回して、雑音の消える位置にセットする ●M/CALLスイッチを押して、メモリーモードにする ●SETモードのメモリー使用範囲に違うチャンネルを設定する 	P11 P12 P26
●マイクのUP/DNスイッチが働かない	◎マイクのLOCKスイッチが“ON”になっている	●マイクのLOCKスイッチを“OFF”にする	P6
●マイクのPTTスイッチで送信しても途中で受信に戻る	◎タイムアウトタイマー機能が動作している	●タイムアウトタイマー機能を“OFF”にする	P20

免許の申請について 12

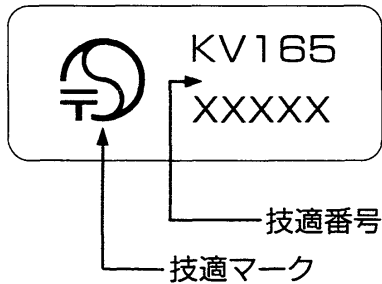
本機は技術基準適合証明を受けた「技適証明送受信機」ですから、免許申請書類のうち「無線局事項書及び工事設計書」は、下記の要領で記入してください。

21 希望する周波数の範囲、空中線電力、電波の型式						
周波数帯	空中線電力	電波の型式		周波数帯	空中線電力	電波の型式
50M	10	F3、F2注、F1注))
))
))
))
))

注. TNC(パケット通信)などを付属したとき、通信速度が1200bpsの場合はF2、9600bpsの場合はF1で申請してください。

本機の後面パネルに、技適証明マークとKから始まる技適証明番号が印刷されたシールを貼っています。その番号を記入してください。

●後面パネルの技適シール

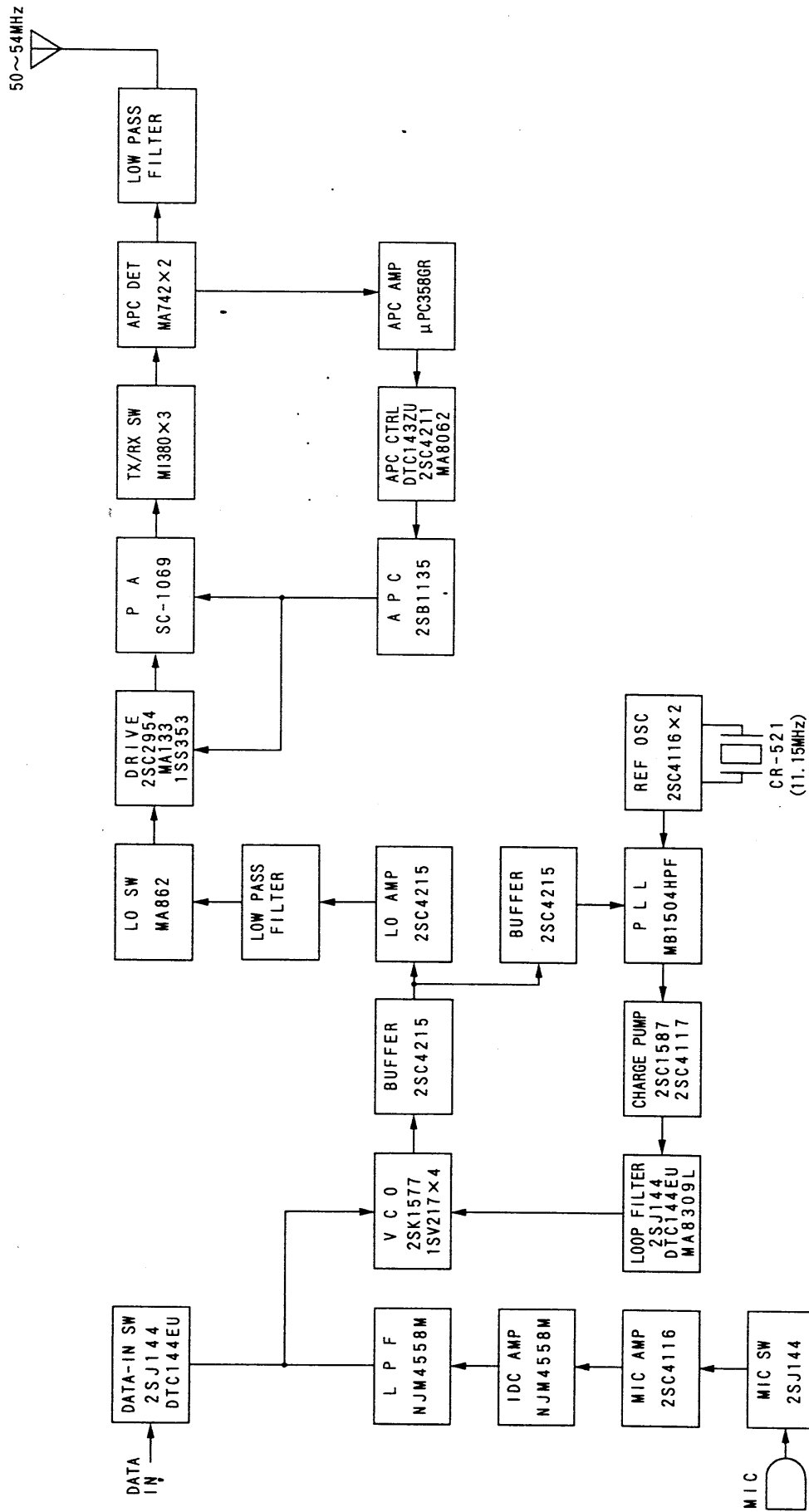


「技適証明送受信機」ですから、記入する必要はありません。

使用する空中線の型式を記入してください。

22 工事設計		第1送信機	第2送信機
変更の種別		取替 増設 撤去 変更	取替 増設 撤去 変更
技術基準適合証明番号		KV165×××××	
発射可能な電波の型式、周波数の範囲		F3、F2注、F1注 50MHz帯	
変調の方式		リアクタンス変調	
定格出力		10W	
終段管	名称個数	SC-1069×1	
	電圧	13.14V	V
送信空中線の型式			
その他の工事設計		電波法第3章に規定する条件に合致している。	

■ IC-681 送信系統図



1. 一般仕様

- 周波数範囲：50.000～54.000MHz
- 電波型式：FM(F1, F3)
- アンテナインピーダンス：50Ω 不平衡
- 電源電圧：DC13.8V ±15%
- 消費電流：受信時 最大出力時 1.0A以下
待ち受け時 0.8A以下
送信時 HIGH/3.8A以下 LOW-2/2.5A LOW-1/1.5A
- 使用温度範囲：-10°C～+60°C
- 周波数安定度：±10ppm(-10°C～+60°C)
- 外形寸法：140(W)×40(H)×132.2(D)mm 突起物を除く
- 重量：0.8kg

2. 送信部

- 送信出力：HIGH/10W LOW-2/約3W LOW-1/約0.5W
- 変調方式：リアクタンス変調
- 最大周波数偏移：±5.0kHz
- スプリアス発射強度：-60dB以下
- マイクロホンインピーダンス：600Ω

3. 受信部

- 受信方式：ダブルスーパーヘテロダイン
- 中間周波数：1st IF/10.7MHz 2nd IF/450kHz
- 受信感度：-16dBμ(0.16μV)以下 12dB SINAD時
- スケルチ感度：-18dBμ(0.13μV)以下 Threshold
- 選択度：15kHz以上/-6dB 30kHz以下/-60dB
- スプリアス妨害比：60dB以上
- 低周波出力：内部スピーカー 2.4W以上(8Ω負荷 10%歪率時)
- 低周波負荷インピーダンス：8Ω

※測定値は、JAIA(日本アマチュア無線機器工業会)で定めた測定法によります。

※定格、外観、仕様などは、改良のため、予告なく変更することがあります。

■IC-681のオプション

HM-77	DTMFメモリー機能付きハンドマイクロホン
MB-17A	ワンタッチモバイルブラケット
SP-10	外部スピーカー
SP-12	外部スピーカー
SP-7	固定局用外部スピーカー
UT-85	トーンスケルチユニット

高品質がテーマです。

アイコム株式会社

本社	547 大阪市平野区加美東6丁目9-16	
北海道営業所	060 札幌市中央区大通東9丁目14	TEL (011)251-3888
仙台営業所	984 仙台市若林区若林1丁目13-48	TEL (022)285-7785
東京営業所	130 東京都墨田区緑1丁目22-14	TEL (03)5600-0331
名古屋営業所	466 名古屋市昭和区長戸町2丁目16-3	TEL (052)842-2288
金沢出張所	921 金沢市高島1丁目335	TEL (0762) 91-8881
大阪営業所	547 大阪市平野区加美南1丁目8-35	TEL (06)793-0331
広島営業所	733 広島市西区観音本町2丁目10-25	TEL (082)295-0331
四国営業所	760 高松市塩上町2丁目1-5	TEL (0878) 35-3723
九州営業所	815 福岡市南区塩原4丁目5-48	TEL (092)541-0211

●サービスについてのお問い合わせは各営業所サービス係宛にお願いします。